



第135号

# Web Fairy Paradise

今月のフェアリー詰将棋

- ・ 第114回 WFP 作品展(再掲)
- ・ 第115回 WFP 作品展
- ・ 推理将棋第120回出題

結果発表

- ・ 第113回 WFP 作品展
- ・ Fairy of the Forest #60
- ・ 推理将棋第112回解答
- ・ 推理将棋第117回解答

読み物

- ・ 第1回神無太郎の氾濫 解答編
- ・ 没作供養【出張編】(占魚亭)



2019/9

## はじめに

---

### 避暑その2

忙しい中、唯一の休みの日曜日に高知県に足を伸ばして来ました。今回の目的地は日本三大鍾乳洞の1つの龍河洞です。山口の秋芳洞は昔訪れたことはありますが、隣の県の高知の龍河洞にはまだ行っていなかったのは何故なのでしょう（笑）

秋芳洞の規模に比べると洞内はかなり狭く腰を曲げないと通れない箇所が何箇所もありお年寄りにはキツイ印象です。とはいえなかなかの迫力でもあり涼しくもあり一度訪れる価値はありそうです。

### 龍河洞（高知県）



最近はやりのマンホールの蓋



### 作品

フェアリー作品、PG、推理将棋はそれぞれの投稿先へ投稿下さい。

### 読み物

フェアリー詰将棋に関するものに限らず日常のことでも研究物でも4コマ漫画からパロディ、イラスト、マイベスト10、自己紹介、何でもOKです。

### 感想

第135号の感想、今後の要望、ご意見等なんでも結構です。是非メールにて私まで

皆様の反応が私の意欲に成りますので是非ご協力をお願いします。

読み物、感想の投稿はこちらまで

たくぼん：[takuji@dokidoki.ne.jp](mailto:takuji@dokidoki.ne.jp)

---

協力いただいている方々のHPアドレス

\*ご協力感謝します

### 妖精都市

<http://cavesfairy.gl.xrea.com/pub/>

### 詰将棋メモ

<http://toybox.tea-nifty.com/>

### 詰将棋おもちゃ箱

<http://www.ne.jp/asahi/tetsu/toybox/>

### Onsite Fairy Mate

<http://k7ro.sakura.ne.jp/>

### K.Komine's Home Page

<http://19900504.web.fc2.com/index.html>

### フェアリー時々詰将棋

<http://fairypara.blog.fc2.com/>

### 占魚亭残日録

<https://senkyotei.hatenablog.com>

# 第114回WFP作品展(再掲)及び 第115回WFP作品展

担当：神無七郎

## 広がる世界

今回は 1970 年以前のフェアリー詰将棋を簡単に紹介しました。今回は「ばか詰（協力詰）」ブーム以降に登場し、フェアリーの世界に豊かな実りをもたらした3つのルールを紹介します。（各図の解答は本稿末尾に掲載します。）

### 1. 自殺詰（自玉詰）

自殺詰（本誌での表記は「自玉詰」）の登場は1971年。作者は加藤徹氏でした。ルールは「攻方が受方に自玉を詰めさせる」というもの。受方が攻方に協力しないので、後に登場する「ばか自殺詰（協力自玉詰）」とは大きく異なります。

加藤徹

自殺詰 10手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
			馬						五
			龍	銀					六
王	歩								七
									八
王			馬						九

持駒 銀2 桂

（詰将棋パラダイス、1971年9月）

自殺詰はチェスプロブレムのセルフメイトの翻案で、加藤氏は「攻方王手義務」を課したつもりはなかったそうです。実際、上図は攻方王手義務がなくても作意が成立します。攻方の手がすべて王手なのは「そうしないと受方が攻方王手を詰ませてくれない」ためなのです。

ただ、自殺詰のルールが攻方王手義務を伴う形で定着したことは、結果的に大きな実りをもたらしました。普通詰将棋で培われた感覚や創作技術がこのルールにも活かされたからです。

フェアリー詰将棋の年間最優秀作に与えられる「前衛賞」は1975年に設けられましたが、「ばか詰」以外で最初に前衛賞を受賞したのは自殺詰の作品だったのです。

花沢正純

自殺詰 108手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

と	と				馬				一
	歩		銀	と				銀	二
と	と	歩	皇	桂	銀				三
	歩	と		ス	香		料		四
王			と		と		と		五
	ス			龍	銀	歩			六
歩	皇	ス			歩	香		桂	七
金					馬	金		金	八
桂						金	玉	銀	九

持駒 なし

（詰将棋パラダイス、1976年11月、第3回前衛賞特別賞、早詰）

上の作品は自殺詰で煙詰を実現し、第3回前衛賞を受賞しました。ただ、自殺詰は余詰が発生しやすく、本作も早詰でした。

自殺詰は受方の自由度が高いと不詰になり易いため、攻方を強くする必要が生じ、それが余詰の元になります。自殺詰の作品を完全作にするには高い検討力が必要で、手掛けるのは特定の作家に限られてしまう傾向があります。

### 2. 天竺詰

それまで安南詰の独壇場だった性能変化ルールにも新星が現れました。1975年に提唱された「天竺詰」です。これは「玉が王手駒の性能になる」というルールで、提唱者は飯田岳一氏。その時の例図の一つをご覧ください。

飯田岳一

天竺詰 9手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
									四
							歩		五
									六
									七
									八
							ス	歩	九

持駒 銀 桂4

（詰将棋パラダイス、1975年6月）

天竺詰は安南詰と違い、性能が変化するのは玉だけです。つまり検討が容易で、新規参入がしやすいルールです。それでいて、玉が様々な駒に化けて、華麗な手順を生み出せることから一躍人気ルールになりました。このルールの第一人者は左真樹氏。何と第5回から第8回まで天竺詰で前衛賞を連続受賞しています。

左真樹  
天竺詰 99手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

		馬							一
								糸	二
	駒	ス	ス			ス	ス		三
	駒	金	ス				皇		四
桂	駒	銀	ス			金	糸		五
桂	皇	金	ス		ス		と	ス	六
桂	糸	歩		ス		ス	ス	王	七
桂	皇		金	飛		糸			八
	馬	香				龍	玉		九

持駒 なし  
(詰将棋パラダイス,1978年9月,  
第5回前衛賞大賞)

左真樹氏は天竺のみならず様々なルールで高度な作品を発表しています。普通詰将棋との掛け持ちではなく、フェアリー専門の作家が登場したという意味でも、フェアリーの歴史に残る作家と言えます。

### 3. ばか自殺詰 (協力自玉詰)

「先後協力して**攻方**の玉を詰ます」——ばか自殺詰 (本誌では「協力自玉詰」と呼称) が登場したのは1972年のことでした。

原敏彦  
ばか自殺詰 6手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

			飛					飛	一
									二
									三
									四
			銀	王		銀			五
									六
			香	ス	香				七
						糸			八
			歩	王					九

持駒 角2  
(詰将棋パラダイス,1972年4月,余詰)

もし詰将棋に攻方王手義務がなければ、「ばか詰」も「ばか自殺詰」も大して変わりはないのですが、攻方王手義務によってこの2つには大きな相違が生まれました。

ここで紹介した原氏作には多数の余詰がありましたが、一般に「ばか自殺詰」の方が「ばか詰」より完全作にしやすい傾向があります。詰める対象が攻方玉なので、攻方玉が詰む条件さえ厳しくしておけば、強力な紛れがあっても余詰の心配が少なく済むからです。

ただ、1970年代には「ばか詰」の開拓がまだ精力的に行われており、「ばか自殺詰」の開拓はやや遅れました。このルールでの初めての前衛賞受賞作は1981年の作品でした。

荒井辰雄  
協力自玉詰 8手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

								王	一
									二
									三
								馬	四
									五
									六
							王		七
									八
									九

持駒 飛2香  
(詰将棋パラダイス,1981年8月,  
第8回前衛賞短編賞)

ばか自殺詰は1980年代に盛んになり、前衛賞受賞作も多数生まれました。「前衛賞」が「妖精賞」に改称された後も、1988年・1989年度の受賞作はこのルールでした。ばか自殺詰と他のルールを組み合わせる試みも盛んに行われ、1980年代には「ばか詰」を凌ぐ基幹ルールとして、確たる地位を得たと言えるでしょう。

今回は「自殺詰」「天竺詰」「ばか自殺詰」について、その初出と最初の受賞作をご覧ください。その後、フェアリーはルールの多様化がますます加速するわけですが、個々のルールや名作を紹介してはきりがないので、今回は少し違った視点からフェアリーの歴史をふり返りたいと思います。



前置きが長くなりましたが、今回の WFP 作品展の紹介に移りましょう。

今回は第 114 回の再掲載分と第 115 回の新規出題です。第 115 回は短編が多く、問題数も少ないので、解図力に自信のある方は久々に全題正解を狙ってみてください。

#### 〔第 114 回作品展各題への補足説明〕(再掲)

第 114 回の出題は全 10 題。2 問セットの問題や複数解を求める作品もあるので実質 12 題です。内訳は、占魚亭氏 2 題、はなさかしろう氏 1 題(実質 2 題)、変寝夢氏 2 題(実質 3 題)、尾形充氏 1 題、上谷直希氏 1 題、青木裕一氏 2 題、くろねこ氏 1 題です。WFP 作品展初登場のルールを含めてバラエティに富んだ作品が並んでいますので、まずは自分の好みのルールの作品から解いてみてください。

**114-1** 及び **114-2** は占魚亭氏の作品。中立駒と Imitator の組み合わせです。神無太郎氏のシリーズと同様の問題設定ですが、協力詰ではなく協力白玉詰なので、難度は上かもしれません。

**114-3** は、はなさかしろう氏による推理将棋仕立ての最短手数探索問題。実戦初形から出発し、指定された回数の連続王手で詰む最短手順を求めよというものです。各問ごとに指定された条件をすべて満たすように解けば、普通の推理将棋になりますが、条件①を満たしつつ、条件②で指定された手数以下の手順を見つければそれも正解となります。できれば、作者の想定手数より短い手順を見つけて、作者に読み勝ってください。

#### (※追記)

**114-3 問 1(n=29)** に 54 手解が発見されました(作者自身による発見)。最短手数狙いの方はぜひ 54 手以下の解の発見に挑戦してください。もちろん、当初の想定である 55 手の「推理将棋」としての解答もお待ちしています。

**114-4** 及び **114-5** は変寝夢氏の作品。

**114-4** は透明駒を使った作品です。受方玉がありませんが、ルールが「協力白玉詰」なので、位置は不明ですが、盤上のどこかにはいるはず。もう 1 枚は盤上にあるか駒台にあるか、初形では判明しません。透明駒作品は本誌にも登場していますし、ネット上にも参考になる資料があります。幸い、透明駒に関する資料を上

谷直希氏が「透明駒はじめてガイド」(<http://fairypara.blog.fc2.com/blog-entry-136.html>)にまとめて下さったので、ぜひ参考にしてください。

**114-5** は WFP132 号で変寝夢氏自身が提唱された「駒全マネ禁」です。2 解ありますが、どちらか片方の解が見つかれば、たぶんもう一方の解もすぐ見つかると思います。

**114-6** は尾形充氏の最悪詰。今回の作品展で唯一の対抗系ルールの作品です。綿密な読みが必要ですので、変化・紛れをしっかりと読み切ってください。

**114-7** は上谷直希氏による透明駒作品。実は過去に余詰で一度撤回された作品と同じ狙いを持つ作品です。もちろん手順は異なるので、それを覚えている方も、あまり先入観を持たずに解いた方が良いでしょう。なお、受方持駒は「なし」となっていますが、これはあくまで通常の持駒はないという意味です。透明駒が受方の駒台にある可能性は排除されていないので、その前提で解ってください。

**114-8** 及び **114-9** は青木裕一氏の All-in-Shogi。どちらも趣向作で、受方持駒制限もあるので解き易いと思います。相手の駒も動かせると、どんな手順が可能になるのか、この 2 題を解いて確かめてください。

**114-10** はくろねこ氏の長編協力白玉詰。前回の **113-1**、**113-2** と共通する主題を持った作品ですが、複雑さでは両者を上回っています。その分、解けたときの充実感も大きいはずなので、ぜひ解図に挑戦してください。

#### 〔第 115 回作品展各題への補足説明〕

第 115 回の出題は全 9 題。2 問セットの問題が 2 つあるので実質 11 題です。内訳は占魚亭氏 3 題、神無太郎氏 3 題、変寝夢氏 2 題(実質 3 題)、はなさかしろう氏 1 題(実質 2 題)です。今回は WFP 作品展初登場のルールがないので、比較的解き易いのではないかと思います。できれば全問正解を狙ってみてください。

**115-1**~**115-3** は占魚亭氏の All-in-Shogi の協力白玉スタイルメイトです。どれもスタイルメイトの典型的な最終形ですが、All-in-Shogi なので、その形に至る手順が通常とは異なります。

**115-4**~**115-6** は神無太郎氏の点鏡作品。氏は

「第1回神無太郎の氾濫」で点鏡作品の特集を行っているので、それも参考にしてください。点鏡はまだまだ目新しいルールで、新手筋もどんどん出てくるでしょう。裸玉といえども油断は禁物ですよ。

**115-7** 及び **115-8** は変寝夢氏の作品。いずれも受方持駒制限があります。

**115-7** はリパブリカンと中立駒の組み合わせ。中立駒は詰ませにくい駒ですが、その分、詰型の想定もしやすいと思います。中立銀の位置だけを変えたツインになっているので、一方が解ければ、それがもう一方のヒントになります。

**115-8** は前回に引き続き「駒全マネ禁」の作品。本局では角が複数あるので、これを上手く使ってください。

**115-9** は、はなさかしろう氏による推理将棋仕立ての最短手数探索問題。前回の続編です。今回は連続王手の回数が少ない方の出題で、特に  $n=2$  の場合は、「王手に対する逆王手で詰んだ」という条件の付いた普通の推理将棋を解く感覚で解けるとと思います。

なお、これは最短手数探索問題も兼ねているので、 $n=2$  の場合は13手以下、 $n=11$  の場合は27手以下の解を見つけられれば、それだけで正解になります。ぜひ作者の読みを上回る解答をお寄せください。

### 解答要項

第114回分解答締切:2019年10月15日(火)

第115回分解答締切:2019年11月15日(金)

宛先: [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) (メールの件名に「解答」の語句を入れてください。)

解答メールが届かない場合は掲示板 (<http://k7ro.sakura.ne.jp/wait.html>) やブログ (<http://k7ro.sblo.jp/>) でお知らせください。

### 作品投稿について

作品投稿は随時受け付けます。(原則として毎月15日の投稿まで当月号に掲載します。)宛先は解答と同じ [k7ro.ts@gmail.com](mailto:k7ro.ts@gmail.com) へ。メールの件名に「作品投稿」の語句を入れてください。添付ファイルも可。機械検討済みなら出力結果のファイル添付を推奨します。

### ルール説明

※WFPのページにまとめ資料 (<http://www.dokidoki.ne.jp/home2/takuji/wfprule112.pdf>) があるので、それも参考にしてください。

#### 【協力自玉詰】

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

#### 【Imitator】(■またはI)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この **Imitator** が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- ・駒を打ったときは動かない。
- ・Imitator は元の駒と同時に動く
- 参照: WFP75号「Imitatorの紹介」

#### 【中立駒】(「」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に  $n$  を付加して表記。取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる(利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 自玉への王手は反則。自玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照: WFP61号「中立駒の紹介」

#### 【推理将棋】

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

#### 【透明駒】

位置・種類が不明の駒。

着手の合法性、攻方王手義務を満たせる可能

性があれば、それを満たしているものとして手順を進めることができる。

→参照：WFP83号「透明駒の紹介」

【駒全マネ禁】

直前の指し手の駒種と同じ駒での着手を禁止する。

(補足)

- ・直前の指し手と同じ種類の駒を動かす手ではか詰みを回避するしかない場合や、玉を取る手にもこれを適用する。
- ・成駒と生駒は別種の駒として区別する。また、直前の手が「成」だった場合、成る前の駒種で判定する。

→参照：WFP132号「駒全マネ禁詰の紹介」

【最悪詰】

攻方はなるべく相手玉が詰まないように王手し、受方はなるべく早く自玉が詰むように応じる。

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【All-in-Shogi】

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも1手前の局面に戻すような着手は禁手とする。

(補足)

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
- 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる
- 3) 自玉を取らせる手は反則

→参照：WFP122号「All-In-Shogiの紹介」

【スタイルメイト】

王手は掛かっていないが合法手のない状態にする。

【協力自玉スタイルメイト】

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。

【点鏡】

55 に関して点对称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

(補足)

- ・行き所のない駒の禁則は適用されない

→本誌初出：第108回 WFP 作品展(WFP127号)

【リパブリカン】

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
- 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
- 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。自玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。

→参照：WFP92号「リパブリカン詰の紹介」

【石】(●)

不透過・不可侵の領域を表す。

飛び越すことは可能。

●	●	●	
角	桂	香	

例えば左図で、  
 一 12香や11香成は不可。  
 二 22角や11角は不可。  
 三 11桂成や31桂成は可。



<第 114 回>解答締切:2019 年 10 月 15 日(火)

■ 114-1 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
			■				王		五
									六
									七
								王	八
									九

持駒 n香

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 114-2 占魚亭氏作

協力自玉詰 6手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
			■						三
									四
									五
							王		六
									七
									八
								王	九

持駒 n香

※■:Imitator

玉以外はすべて中立駒

■ 114-3 はなさかしろう氏作

最短手数探索 (推理将棋)

各問の n について、最後の n 手が王手で詰む最短手数を求め、その手順を示してください。

問 1 n=29

- ① 先後通算 29 連続王手で詰み
- ② 総手数 55 手 (27~55 手目は王手)
- ③ すべての筋に着手があった
- ④ 桂の手は 10 手目と 23 手目と 54 手目のみ
- ⑤ 銀の手は 5 回全てが棋譜に「打」のつかない手だった (味方銀の利きへの銀打はなかった)
- ⑥ 成る手は 36 手目と 45 手目と 55 手目のみ

問 2 n=39

- ① 先後通算 39 連続王手で詰み
- ② 総手数 74 手 (36~74 手目は王手)
- ③ 成は 7、53、54、58、66、74 手目のみ
- ④ 棋譜表記「打」(味方同種駒への利きへの駒打)は 28、62 手目のみ
- ⑤ 飛が前に進む手はなかった
- ⑥ 19 手目と 30 手目は 55 桂
- ⑦ 角の腹への金の手と金の腹への金の手があった
- ⑧ 相手が駒を打った直後の手では、必ず盤上にある「走ったり跳んだりできる駒」(飛龍角馬桂香のいずれか)の着手をした (※ 必ずしも走ったりせず、隣のマスへの着手でも良いが、打つのは不可)
- ⑨ 先手玉は居玉のまま不動
- ⑩ 歩の手は初手と 15 手目のみ

■ 114-4 変寝夢氏作

協力自玉詰 4手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
							歩	王	一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 飛香

※透明駒:攻方 0 枚、受方 2 枚

■ 114-5 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力自玉詰 6手 (※2解)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			飛						一
				王		駒			二
				飛					三
									四
				桂		桂			五
									六
									七
				王					八
							香		九

持駒 なし



■ 114-6 尾形充氏作

最悪詰 15手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				飛					一
					皇				二
						歩			三
		角					銀		四
							王		五
									六
						歩			七
					歩		王		八
				香					九

持駒 なし

■ 114-7 上谷直希氏作

協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
							王		三
									四
								王	五
						王	王		六
									七
			飛						八
									九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

※透明駒：攻方 0枚、受方 2枚

■ 114-8 青木裕一氏作

All-in-Shogi協力詰 35手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
歩							王		八
	金	金	金	金			王	歩	九
飛	銀							王	九

攻方持駒 なし

受方持駒 なし

■ 114-9 青木裕一氏作

All-in-Shogi協力詰 111手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						龍	香	王	七
						桂			八
						桂		王	九

攻方持駒 歩18

受方持駒 なし

■ 114-10 くらねこ氏作

協力自玉詰 832手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

			銀						一
	歩			金					二
	金	香		金					三
	銀			香					四
		桂	王	角					五
				香					六
桂		王							七
金			桂						八
			王	王					九

持駒 飛歩17



<第 115 回>解答締切:2019 年 11 月 15 日(金)

■ 115-1 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 角

■ 115-2 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 4 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 飛

■ 115-3 占魚亭氏作

All-in-Shogi協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
									王	九

持駒 香

■ 115-4 神無太郎氏作

点鏡協力詰 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

				王						一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 香3

■ 115-5 神無太郎氏作

点鏡協力詰 11 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
										三
										四
										五
										六
								王		七
										八
										九

持駒 歩3

■ 115-6 神無太郎氏作

点鏡協力詰 11 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

										一
										二
							王			三
										四
										五
										六
										七
										八
										九

持駒 歩

■ 115-7 変寝夢氏作

a) リパブリカン協力白玉詰 4手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			王	銀					四
									五
									六
									七
							飛		八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※28飛及び44銀は中立駒

b) リパブリカン協力白玉詰 4手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
			王						四
									五
				銀					六
									七
							飛		八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※28飛及び46銀は中立駒

■ 115-8 変寝夢氏作

駒全マネ禁協力詰 7手  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
				●					四
			馬						五
			歩	●	●				六
			●			王			七
				桂	飛				八
				角					九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし  
※●:石 (着手不可、不透過)

■ 115-9 はなさかしろう氏作

最短手数探索 (推理将棋)

各問の n について、最後の n 手が王手で詰む最短手数を求め、その手順を示してください。

問 1 n=2

- ① 先後通算 2 連続王手で詰み
- ② 総手数 14 手 (13、14 手目は王手)
- ③ 初手は飛
- ④ 成あり

問 2 n=11

- ① 先後通算 11 連続王手で詰み
- ② 総手数 28 手 (18~28 手目は王手)
- ③ 3、6、14 手目も王手
- ④ 成なし
- ⑤ 棋譜表記に「左」がつく手があった
- ⑥ 18 手目は 54 角

以上



《今月紹介した作品の解答》

加藤徹 作 (自殺詰 10手)

88 銀 同歩生 98 銀 同角生 89 桂 同角生  
96 龍 同飛 87 馬 同玉 まで 10手

花沢正純 作 (自殺詰 108手)

《作意》

86 龍 同玉 75 馬 95 玉 87 桂 同と  
96 歩 同玉 97 香 同と 同金 95 玉  
94 と 同玉 95 歩 同玉 86 金 94 玉  
93 と 同玉 94 歩 同玉 85 金 93 玉  
83 と 同歩 同歩成 同玉 74 馬 93 玉  
92 と 同飛 同馬 同玉 91 飛 83 玉  
94 飛成 73 玉 74 金 72 玉 73 歩 81 玉  
72 歩成 同玉 83 龍 71 玉 62 と 同玉  
73 龍 53 玉 64 金 同と 54 と右 同と  
63 龍 44 玉 33 銀生 同玉 32 馬 44 玉  
45 香 同と 55 銀 同と 34 銀成 45 玉  
55 と 同玉 65 馬 45 玉 46 歩 同玉  
47 金 45 玉 44 全 同玉 45 歩 同玉  
56 金 44 玉 45 金 同玉 54 龍 46 玉  
55 龍 37 玉 28 銀 36 玉 37 銀 同玉  
28 金寄 36 玉 37 金 同玉 38 金 36 玉  
37 金 同玉 38 馬 36 玉 26 と 同玉  
25 龍 17 玉 16 馬 同桂 28 龍 同桂成  
まで 108手

《早詰》

86 龍 同玉 75 馬 95 玉 87 桂 同と  
96 歩 同玉 97 香 同と 同金 95 玉  
94 と 同玉 95 歩 同玉 86 金 94 玉  
76 馬 85 桂 93 と 同玉 94 歩 同玉  
85 金 93 玉 83 歩成 同歩 同と 同玉  
94 金 73 玉 85 桂 72 玉 62 と 同玉  
52 馬 72 玉 73 桂成 同玉 83 飛 72 玉  
82 飛生 73 玉 74 と 同玉 83 飛成 64 玉  
55 銀 同と 54 と 同と 63 龍 55 玉  
54 銀成 45 玉 46 歩 同玉 47 金 45 玉  
56 金 同玉 67 龍 46 玉 47 香 37 玉  
28 銀 36 玉 27 銀 37 玉 26 銀 36 玉  
35 と 26 玉 25 馬 37 玉 36 と 同桂  
27 金 同玉 28 金 同桂成 まで 82手

飯田岳一 作 (天竺詰 9手)

23 桂 同玉 15 桂 同玉 27 桂 同玉  
19 桂 同玉 28 銀 まで 9手

左真樹 作 (天竺詰 99手)

27 と 同と寄 24 金 71 玉 83 桂生 同と  
72 銀 同玉 84 桂 同と 73 銀 同と  
同金 同玉 85 桂 同と 74 銀打 同と  
同銀 同玉 86 桂 同と 75 香 同と  
同金 同玉 76 香 同と右 同歩 同と  
同香 同玉 77 金 75 玉 76 金 74 玉  
75 金 73 玉 74 金 72 玉 73 金 71 玉  
72 金 同玉 73 歩 同玉 74 歩 同玉  
75 歩 同玉 76 歩 同玉 77 歩 同玉  
88 馬 同歩成 78 歩 同と 同飛 67 玉  
68 歩 同と 同飛 37 玉 38 飛 同と  
同龍 26 玉 27 歩 同と 同龍 35 玉  
36 歩 同と 同龍 24 玉 25 龍 13 玉  
14 歩 同と 同龍 22 玉 23 歩 同と  
同龍 11 玉 12 龍 同玉 13 歩 同玉  
14 歩 同玉 15 歩 同玉 16 歩 同玉  
17 歩 同玉 18 香 まで 99手  
(28手目は「同と左」でも良い。  
本作唯一の非限定。)

原敏彦 作 (ばか自殺詰 6手)

51 飛成 同飛 11 角 同飛 19 角 同飛成  
まで 6手  
(初手・最終手ともに成・生非限定。また、初  
手から「64 銀 56 玉 65 角 67 玉 58 角 同  
と」など多数の余詰がある。)

荒井辰雄 作 (ばか自殺詰 8手)

81 飛 71 角 22 飛 同玉 29 香 28 飛  
82 飛成 同角 まで 8手  
(7手目は成・生非限定。)



## 「第 51 回神無一族の氾濫」投稿作品募集

「第 51 回神無一族の氾濫」への参加を募ります。今回のお題は「**局面の局所的な変化**」です。

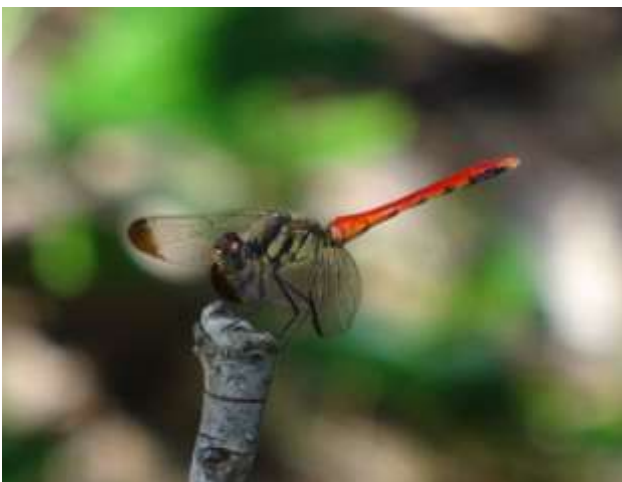
局面の小さな変化が大きな効果を生む演出は非常に効果的です。例えば「先打突歩詰」は持駒を盤上の置駒に変えて打歩詰を打開します。

「持駒変換」は持駒の種類を変えて局面を進展させます。他にも駒の所属や手番など、変化させる対象や、変化を実現する手段によって様々な表現が可能です。

そこで今回は、局面の局所的な変化をクローズアップした作品を募集します。もちろん、容易に実現できる変化では効果は薄いので、ある程度の手数や意外性を伴う変化が望まれます。また、フェアリーならではの**変化対象・手段**を有する作品を特に歓迎します。

また、1 題通常の協力詰（ばか詰）を募集します。今回のお題に該当する作品であれば、優先して採用します。

作品要件	局面の局所的な変化を主題とした作品
募集締切	2019 年 10 月 13 日（日）
募集作品数	4 + 1（ばか詰枠）
送り先	神無七郎（k7ro.ts@gmail.com） 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1 人何作でも投稿可。 採否は 10 月 20 日までに通知します。





## 推理将棋第120回出題

将棋についての話をヒントに将棋の指し手を復元するパズル、推理将棋の第119回出題です。はじめての方は どんな将棋だったの？ - 推理将棋入門 をごらんください。

解答、感想はメールで2019年10月10日までにTETSUまで (omochabako@nifty.com) メール の 題名は「推理将棋第120回解答」でお願いします。解答者全員の中から抽選で1名に賞品リストからどれでも一つご希望のものをプレゼント！ 1題でも解けたらぜひご解答ください。

\*\*\*\*\*  
**推理将棋第120回出題 担当 Pontamon**

第120回は新旧の担当からの出題です。

初級は新担当からの8手詰め。

中級は前担当のNAOさんからの9手詰めです。初級にどうぞとのことですが1条件なので中級としました。

上級は初代担当のミニベロさんからの12手詰めですが会話は無く「角にまつわる123問題」というタイトル。第36回の出題を見ると「○手目は○○○」という書式の4条件で9手詰めを出題する形式を「94問題」と命名したのがミニベロさんとのことです。今回は12手詰をこの書式の3条件にしたので「123問題」ということなのでしょう。

\*\*\*\*\*

### ■ 本出題

#### 120-1 初級 Pontamon 作

同歩があった 8手

8手詰で同歩の手ができるのは先手か後手か？

#### 120-2 中級 NAO 作

右へ倣え 9手

右の付く着手を整理しよう。

#### 120-3 上級 ミニベロ 作

角にまつわる123問題 12手

2つの角着手条件を整理しよう。

\*\*\*\*\*

■ 締め切り前ヒント (10月3日頃 Pontamon)

\*\*\*\*\*

#### 120-1 初級 Pontamon 作

同歩があった 8手

「これが8手で詰めた時の棋譜だよ」

「同歩なんて手があったんだ」

(条件)

・8手で詰み

・同歩の着手があった

\*\*\*\*\*

#### 120-2 中級 NAO 作

右へ倣え 9手

「9手で詰まして勝ったんだって？」

「うん。この将棋、右の付く手が3手続いたよ」

(条件)

・9手で詰んだ

・棋譜表記で右の付く手が3手続いた

\*\*\*\*\*

#### 120-3 上級 ミニベロ 作

角にまつわる123問題 12手

12手詰 3条件です。

(条件)

・6手目は歩頭の角を取る手

・11手目は歩頭に角不成

・12手目の両王手で詰み

(9/17 余詰め修正しました)

# Fairy of the Forest #60 出題

- 2019年06月20日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」
- 2019年08月15日：投稿締切
- 2019年08月20日：出題
- 2019年09月15日：解答締切
- 2019年09月20日：結果発表

## ■ 出題

相変わらず投稿作僅少ですが、このまま出題します。2題とも手数は長めですが、そのぶん解きごたえはあると思います。受方持駒制限にご注意ください。

(解答先)  
→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)



LOVE KYUSHU

## ■ 60-01 神無七郎 協力詰 45手

受方持駒：桂

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
								皇	皇										三
								飛	飛									玉	四
								歩	と										五
								王								王	王		六
								桂								桂	王		七
																		王	八
								歩	桂							桂	桂		九

持駒 なし

## ■ 60-02 小林看空 協力詰 47手

受方持駒：なし

										9	8	7	6	5	4	3	2	1	
																			一
																			二
																			三
																			四
																			五
								飛						桂	玉	歩	歩	金	六
								歩	桂					桂	歩	歩	歩		七
								香						桂	王	王	王		八
								金	香					飛		桂	王	王	九

持駒 角

# 第113回WFP作品展結果

担当：神無七郎

第113回WFP作品展の結果を報告します。

今回の出題は全15題(複数解の作品を含むので実質17題)。解答者数は9名。全題正解者なし。解答の内訳は以下の通りです。

## 〔第113回WFP作品展成績〕(敬称略)

○:正解・余詰解 ×:誤解 -:無解

解答者名	1	2	3	4	5	6	7	8a	8b	9	10	11	12	13a	13b	14	15	計
くろうさぎ	○	○	○	○	-	-	○	-	○	-	○	○	○	○	○	○	○	13
占魚亭	○	○	-	-	-	○	○	○	○	-	-	○	○	○	×	○	○	11
一乗谷酔象	○	○	○	○	○	-	-	-	-	○	○	-	○	○	○	○	-	11
たくぼん	○	○	-	-	-	-	○	-	-	○	○	○	○	-	○	○	○	10
縫田光司	-	-	-	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	4
Larva	-	-	○	○	○	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
暇人 EX	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	-	○	○	-	-	3
はなさかしろう	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	3
変寝夢	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	○	○	○	-	3

今回は113-6及び113-8a(複数解のうち一つ)が作者以外の正解者なしとなりました。難しいルールや目新しいルールを組み合わせた作品なので、仕方のない結果かもしれません。

また、今回はくろうさぎ氏、暇人 EX 氏のお二人が解答初参加です。もともと、「くろうさぎ」は解答専用の新規ペンネームで、実は初解答ではないという可能性もありますね。解答数13は今回のトップで、見事な成績です。暇人 EX 氏は解答のみで、短評はありませんでした。

作品は力作が多く、内容も充実していましたが、残念ながら113-10に余詰がありました。作意解が1名だけだったという結果から見ると、やはり条件不足だったようです。



### ■ 113-1 くろねこ氏作 (正解4名)

協力白玉詰 392手

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一							皇			
二				香			科		香	
三				香			王	歩	金	
四									香	
五							香		王	
六										
七							香			
八								桂	桂	
九										

攻方持駒 飛2 桂 歩17

受方持駒 香

#### 【ルール】

##### • 協力白玉詰

先後協力して最短手数で攻方の玉を詰める。

#### 【解答】

「17 飛 16 香 25 飛 同玉 27 飛 26 飛  
 17 桂 同香成 26 飛 15 玉 16 歩 同杏  
 同飛 25 玉 27 飛 26 桂 同飛寄 15 玉  
 17 飛 16 歩 25 飛 同玉 27 飛 26 飛  
 17 桂 同歩成 26 飛 15 玉 16 歩 同と  
 25 飛 同玉 27 香 26 桂 同香 同と  
 17 桂 同と 27 飛 26 飛 同飛 15 玉



【短評】

占魚亭さん

サイクル手順を確定させるのにちょっと苦労しました。

変寝夢さん（※無解）

14手目の局面で手が広く断念。  
部分的にはこんな筋なんだろう、というのはわかっていたが、線にはならなかった。

一乗谷酔象さん

113-2 よりも難解でした。  
歩を香に代える 18 手と香歩を消費する 32 手が交互に現れる面白い趣向。  
32 手で歩を 1 枚取り返さすのがもどかしい。

たくぼんさん

見事な応酬で一筋縄では行きませんでした。  
収束の破調でも頭を一捻り。

■ 113-2 くらねこ氏作（正解 4 名）

協力自玉詰 690 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								飛	一
									二
金	金						銀		三
桂	桂	金						角	四
								王	五
桂	王	卒							六
香		桂	銀						七
		角	銀						八
香	銀								九

持駒 香歩18

【解答】

88 香 87 飛 同香 同杏  
「16 飛 26 金 同飛 95 玉 86 金 同杏  
25 飛 35 金 同飛 85 杏 86 金 同玉  
36 飛 46 金 同飛 56 香 76 金 同杏  
87 歩 同杏 56 飛 66 金 同飛 95 玉  
86 金 同杏 65 飛 75 金 同飛 85 杏  
86 金 同玉 76 飛 同杏 88 香 87 飛  
同香 同杏」×18  
26 飛 36 角 まで 690 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

								飛	一
									二
金	金					酒			三
桂	桂	金							四
								王	五
桂	王					角	飛		六
香	卒	桂	銀						七
		角	銀						八
香	銀								九

持駒 なし

【作者のコメント】

38 手サイクル×18 回+6 手=690 手 で同一手順 18 回を繰り返しました。

どのタイミングで歩を消費して香を入手するかのみ少し考え所ですが難しくはないかと思えます。

【解説】

本局も玉の可動域 2 箇所を持駒消去です。

玉が動けるのは 86 と 95 の 2 箇所。前局が横方向の往復だったのに対し、本局は斜めの往復です。

いくら歩を消したいと言っても、いきなり初手 87 歩では同杏で行き詰まってしまうので、88 香から飛合を稼ぐのは当然ですが、この飛を 16 という最も遠い地点から打つのが妙手です。

87 歩を同杏と取らせるには、杏を 76 に戻さねばなりません、そのための合駒を稼ぐのがこの最遠打の目的です。

面白いのは、歩を 1 枚消すために杏の回転運動が 2 回必要なこと。1 つの回転は歩を消すため、もう 1 つの回転は香を介して再び飛を入手するために行われます。

仮に飛を打つ場所が最遠地点でないと、杏を 2 回転させるための十分な合駒が稼げないため、回転は途中で止まってしまう。遠打と杏の 2 回転がピッタリ同期するのは、あまりにも出来すぎで、天の配剤としか思えません。

持駒の歩の消去が終わった後は、最遠打ではなく一つ隣の 26 への限定打。それに対し受方は移動合逆王手。着地もピッタリと決まった、美しい持駒消去作品だったと思います。



ところで、協力自玉詰以外では「玉の可動域2箇所」の条件でどんな作ができるでしょう？

普通詰将棋ではかなり凝った作品が作られています。「おもちゃ箱」の「記録に挑戦！」のコーナーに記録展示室 No.133 として登録されている、馬詰恒司氏作「足踏み」(<http://www.n-e.jp/asahi/tetsu/toybox/challenge/ct133.htm>)をご覧ください。これは玉移動2マスのみの長手数記録作品であり、手数は119手です。

上記の作品や今回のくろねこ氏の作品を見ると、玉があまり動けなくても、工夫次第で高度な作品が作れることが分かりますね。

【短評】

**占魚亭**さん

こちらもパズル的ですが、1と比べて分かりやすく楽しいサイクル手順でした。香合のタイミングがポイントでしょうか。

**変寝夢**さん（※無解）

歩を一枚消去するために、こんなに横幅が広いのか。連合ではなく、段を変えて細かく金を入手しているのが面白く感じた。

**一乗谷酔象**さん

遠飛の王手に合駒がぴったり収まり成香を翻弄させる。

**たくぼん**さん

非限定になりそうな飛打が最遠打で限定されているのは驚きました。作者は誰なのでしょう？菅野哲郎さんか、昔で言えば飯田さんとか左真樹さんとかでしょうか。



■ 113-3 神無太郎氏作（正解3名）

左下無限盤成禁二玉

協力自玉スタイルメイト7手（受先）

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
			王	王	王					一
										二
										三
										四
										五
										六
										七
										八
										九
										一〇

攻方持駒 飛角

受方持駒 残り全部+P4

※P:Prime-Leaper

【ルール】

• **スタイルメイト**

王手は掛かっていないが合法手のない状態。

• **二玉（多玉）協力自玉スタイルメイト**

先後協力して最短手数で攻方をスタイルメイトにする。どの玉にも王手が掛かっているはならない。

• **成禁**

手順中に成る手があってはならない。

（補足）

- あくまで手順中に「成」が出ないだけ。「詰」や「王手」の概念は通常通り。

• **左下無限盤**

拡大盤の一種。

左及び下方向に無限に広がった盤を使う。

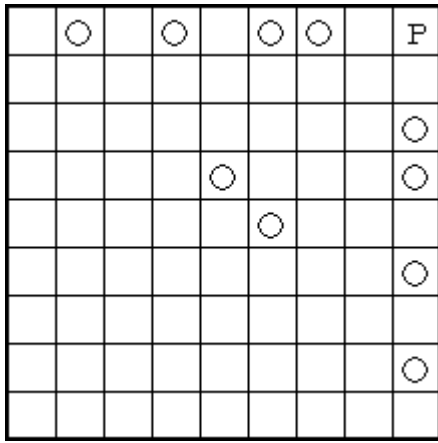
• **受先**

受方から指し始める。

• **Prime-Leaper (P)**

移動距離が任意の素数である無限複合八方桂。

Prime-Leaper = (0,2)-Leaper + (0,3)-Leaper + (0,5)-Leaper + (3,4)-Leaper + (0,7)-Leaper + (0,11)-Leaper + ...

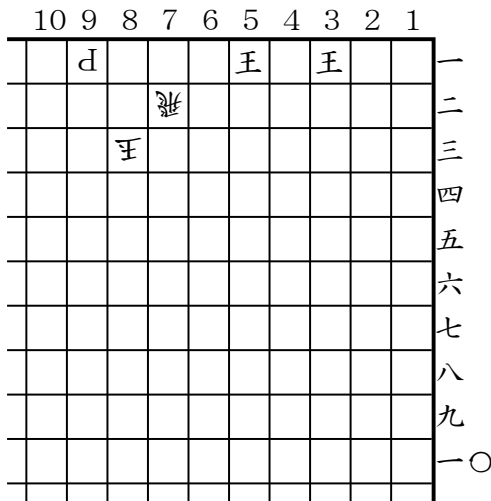


(○がPの利き)

【解答】

91P 73飛 72飛 82角 同玉 83飛  
同玉 まで 7手

(最終形)



持駒 なし

【解説】

今回の神無太郎氏の3作はいずれも素数の性質を詰将棋に応用した作品です。

本局では「差が2の3つの連続した素数は3、5、7しかない」という素数の性質が利用されています（これは容易に証明できる事実なので、証明は省略します）。

初形で攻方玉は31と51に一間置いて並んでいます。2段目への動きは飛で防げますが、横への動きはP（Prime-Leaper）で防ぐしかありません。受方玉は攻方の飛角を処分するときに元の位置から動いてしまうので、61・41・21の3箇所をPで抑える必要があります。

「差が2の3つの連続した素数は3、5、7し

かない」という事実により、初手に91Pとするのが、61・41・21の3箇所をPで抑える唯一の手段ということになります。

本局の作意手順は、それだけを見ると9×9の通常盤に収まっていますが、敢えて左下無限盤を使うことによって、盤が無限に大きくても91Pが限定になることを強調しています。

無限に広い盤上での限定打は興味深い主題です。既発表作品では、WFP85-sp（詰ガエル氏作、左下無限盤協力詰 137手、ナイトライダー使用）で、11玉に対し初手(52380,104759)地点にナイトライダーを限定打して王手するという物凄い作品がありました。これから、いろいろな手段や意味付けによる超長距離限定打を見てみたいものですね。

【短評】

Larvaさん

初形から明らかではないかもしれませんが、受方玉は7一から離れないといけませんので、Pでは2一と4一だけでなく、6一の退路も封鎖が必要です。そして、双子素数は無数に存在するかもしれないのに、三つの素数は公差2の等差数列である場合、そのうちの1つは3で割り切れるので、それは(3、5、7)しかありません。

Although it might not be obvious from the starting position, the defender's king has to leave its square, leaving it to the Prime-Leaper to cover 6一, in addition to 4一 and 2一. And even though the number of twin prime pairs may be infinite, when three primes form an arithmetic progression with common difference 2, one of them must be divisible by 3, so they must be 3, 5, and 7.

くろうさぎさん

P:素数とすると P+2,P+4 も素数になるのは3,5,7のみだけなのでこれ以外に解はなさそう。

証明自体は P,P+2,P+4 の何れかが3の倍数に必ずなる事は容易に説明できるので省略。

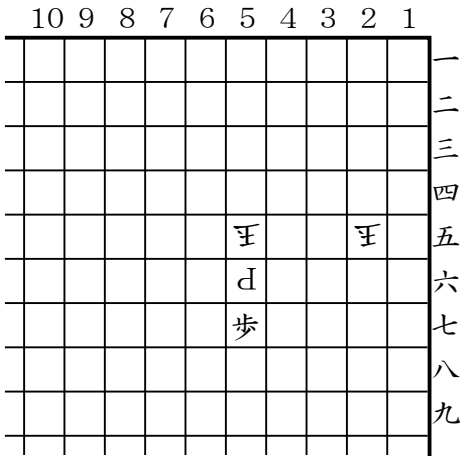
一乗谷酔象さん

一間跳び3連続で 21,41,61 を塞ぐのは素数

並び 3,5,7 を使う。  
受先 91P の一点読みで解けた。

■ 113-4 神無太郎氏作 (正解 4 名)

左下無限盤成禁 Isardam 二玉協力詰 3 手



攻方持駒 なし  
受方持駒 残り全部 + P3  
※ P: Prime-Leaper

【ルール】

- 二玉詰 (多玉詰)  
複数の玉を使用する。  
どの玉に対しても王手放置は禁手。  
王手を外せなければ詰み。  
→ 本誌初出: 第 41 回 WFP 作品展 (WFP45 号)
- 協力詰

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

• Isardam (騎)

同種の敵駒の利きに入る手を禁止する。  
玉を取ると同種の敵駒の利きに入る場合は王手とみなさない。(タイプ A)

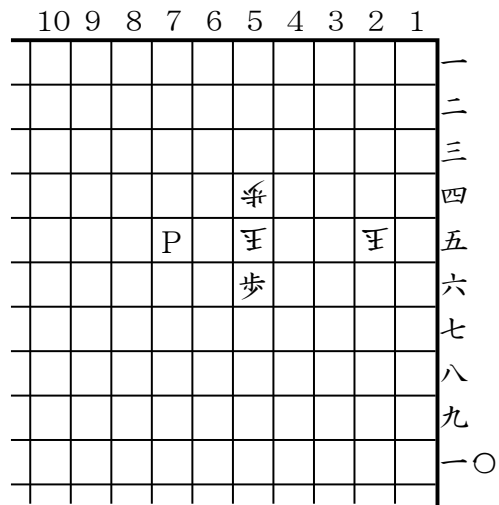
(補足)

- 玉を取るとき敵駒の利きに入るかどうかを問わない場合は、「タイプ B」。
- 成駒と生駒は別種の駒として区別する

【解答】

56 歩 54 歩 75P まで 3 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者による解説】

◆ 作意が唯一解であることの説明

詰手順は以下の通り限定される。

- 1 手目: 56 歩が絶対。
- 2 手目: 55 玉を周囲の 8 柁に動かすか、55 玉は動かさず 56 歩の利きを無効にするかの 9 通りしかない。  
2 手目での 55 玉の移動先を B とする。
- 3 手目: 詰めるには、P で 2 つの玉に両王手するしかない。  
3 手目での P の打ち場所を P とする。
- 4 手目: 逃れるには、P で 2 つの玉に紐をつけ、Isardam 効果で攻方 P の利きを無効化するしかない。  
4 手目での P の打ち場所を Q とする。なお、PQ は素数であってはならない。

B ごとに、P、Q の存在を確認する。なお、25 玉の位置は A=(2, 5)としておく。

**B=(4, 4)、(4, 6)、(5, 5)、(6, 4)、(6, 6)の場合**

B=(x, y)とすると、 $x^2+y^2$ は偶数である。

$$PA^2 - PB^2 = (m-2)^2 + (n-5)^2 - (m-x)^2 - (n-y)^2 \\ = -4m + 4 - 10n + 25 + 2mx - x^2 + 2ny - y^2 : \text{奇数}$$

PA、PBは素数なので、PA=2、PB=奇素数、またはPA=奇素数、PB=2である。

これを満たすPは各Bに対して最大8個であり、それぞれを確認する。

- B=(4, 4)の場合：Pは存在しない。→逃れ
- B=(4, 6)の場合：Pは存在しない。→逃れ
- B=(5, 5)の場合：P=(7, 5)であり、Qは存在しない。→詰（作意）
- B=(6, 4)の場合：P=(2, 7)、(6, 2)であるが、それぞれに対してQ=(6, 2)、(2, 7)が存在する。  
→逃れ
- B=(6, 6)の場合：P=(2, 3)、(6, 8)であるが、それぞれに対してQ=(6, 8)、(2, 3)が存在する。  
→逃れ

**B=(4, 5)の場合**

AB=2なので、 $PA-2=PA-AB \leq PB \leq PA+AB=PA+2$

PA、PBは整数なので、PB=PA、PA±1、PA±2

また、 $PA^2 - PB^2 = (m-2)^2 + (n-5)^2 - (m-4)^2 - (n-5)^2 = 4m - 12 : \text{偶数} \cdots \textcircled{1}$

- PB=PAの場合：  
m=3である。  
n=5なら、PA=1となるが、これはPAが素数であることと矛盾。  
n≠5なら、 $|n-5|^2 < PA^2 = 1 + (n-5)^2 < 1 + 2|n-5| + (n-5)^2 = (1 + |n-5|)^2$ となるが、これはPAが整数であることと矛盾。
- PB=PA±1の場合：  
 $PA^2 - PB^2 = PA^2 - (PA \pm 1)^2 = \mp 2PA - 1 : \text{奇数}$   
これは①と矛盾。
- PB=PA±2の場合：  
AB=2なので、A、B、Pは同一直線上にある。  
∴ P=(m, 5)  
PA、PBが素数で、PB=PA±2となるようなmは、小さい方から7、9、15、以降15より大きい奇数である。  
P=(7, 5)、(9, 5)に対してはQ=(15, 5)が存在する。→逃れ  
P=(15, 5)、・・・に対してはQ=(7, 5)が存在する。→逃れ

**B=(6, 5)の場合**

AB=4なので、 $PA-4=PA-AB \leq PB \leq PA+AB=PA+4$

PA、PBは整数なので、PB=PA、PA±1、PA±2、PA±3、PA±4

また、 $PA^2 - PB^2 = (m-2)^2 + (n-5)^2 - (m-6)^2 - (n-5)^2 = 8m - 32 : \text{偶数} \cdots \textcircled{2}$

- PB=PAの場合：  
m=4である。  
n=5なら、PA=PB=2となり、P=(4, 5)であるが、Q=(11, 5)がある。→逃れ  
n=4、6なら、 $PA = \sqrt{5}$ となるが、これはPAが整数であることと矛盾。  
n≠4、5、6なら、 $|n-5|^2 < PA^2 = 4 + (n-5)^2 < 1 + 2|n-5| + (n-5)^2 = (1 + |n-5|)^2$ となるが、これはPAが整数であることと矛盾。
- PB=PA±1の場合：  
 $PA^2 - PB^2 = PA^2 - (PA \pm 1)^2 = \mp 2PA - 1 : \text{奇数}$

これは②と矛盾。

- $PB=PA\pm 2$  の場合：  
双曲線の標準形を使う。

2点  $(-\sqrt{a^2+b^2}, 0)$ 、 $(\sqrt{a^2+b^2}, 0)$ からの距離の差が  $|2a|$  となる点  $(x, y)$ の軌跡は、  
 $(x/a)^2 - (y/b)^2 = 1$  である。

これに合わせるため、 $A=(2, 5)$ 、 $B=(6, 5)$ 、 $P=(m, n)$ を  $x'=x-4$ 、 $y'=y-5$  と並行移動させた  $A'=(-2, 0)$ 、 $B'=(2, 0)$ 、 $P'=(m-4, n-5)=(m', n')$ で考える。

このとき  $a=1$ 、 $b^2=3$  となり、 $m'^2 - (n'/3)^2 = 1$  である。  $\therefore n'^2 = 3m'^2 - 3$

$$P'A'^2 = (m'+2)^2 + n'^2 = (2m'+1)^2 \quad \therefore P'A' = |2m'+1|$$

$$P'B'^2 = (m'-2)^2 + n'^2 = (2m'-1)^2 \quad \therefore P'B' = |2m'-1|$$

また、 $n'^2 = 3(m'^2 - 1)$  であることから、 $n'$  は 3 の倍数であり、 $m'^2 - 1$  も 3 の倍数であることが分かる。

$\therefore 3m'^2 + m'^2 - 1 = (2m'+1)(2m'-1)$  も 3 の倍数である。

$$\therefore P'A' = |2m'+1| = 3 \text{ または } P'B' = |2m'-1| = 3$$

$$\therefore m' = -2, 1, -1, 2$$

$$\therefore n' = \pm 3, 0, 0, \pm 3$$

$$\therefore P=(m, n) = (m'+4, n'+5) = (2, 2), (2, 8), (5, 5), (3, 5), (6, 2), (6, 8)$$

それぞれの  $P$  に対して  $Q=(2, 8), (2, 2), (2, 2), (2, 2), (6, 8), (6, 2)$  が存在する。→逃れ

- $PB=PA\pm 3$  の場合：

$$PA^2 - PB^2 = PA^2 - (PA\pm 3)^2 = \mp 6PA - 9 : \text{奇数}$$

これは②と矛盾。

- $PB=PA\pm 4$  の場合：

$AB=4$  なので、 $A, B, P$  は同一直線上にある。

$$\therefore P=(m, 5)$$

$PA, PB$  が素数で、 $PB=PA\pm 4$  となるような  $m$  は、小さい方から 9、13、19、以降 19 より大きい奇数である。

$P=(9, 5)$  に対しては  $Q=(13, 5)$  が存在する。→逃れ

$P=(13, 5), \dots$  に対しては  $Q=(9, 5)$  が存在する。→逃れ

#### **B=(5, 4)の場合**

$AB=\sqrt{10}<4$  なので、 $PA-4 < PA-AB \leq PB \leq PA+AB < PA+4$

$PA, PB$  は整数なので、 $PB=PA, PA\pm 1, PA\pm 2, PA\pm 3$

また、 $PA^2 - PB^2 = (m-2)^2 + (n-5)^2 - (m-5)^2 - (n-4)^2 = 6m - 2n - 12 : \text{偶数} \dots \textcircled{3}$

- $PB=PA$  の場合：

$$n = 3m - 6$$

$$\therefore PA^2 = (m-2)^2 + (3m-11)^2 = 5(2m^2 - 14m + 25)$$

$PA$  は素数なので、 $PA=5$  である。

$$\therefore 2m^2 - 14m + 25 = 5$$

$$\therefore m^2 - 7m + 10 = 0$$

$$\therefore m = 2, 5$$

$$\therefore n = 0, 9$$

$\therefore P=(5, 9)$  であるが、これに対しては  $Q=(5, 1)$  が存在する。→逃れ

- $PB=PA\pm 1$  の場合

$$PA^2 - PB^2 = PA^2 - (PA\pm 1)^2 = \mp 2PA - 1 : \text{奇数}$$

これは③と矛盾。



・  $PB = PA \pm 2$  の場合 :

双曲線の標準形を使う。そのために、A、B、P に平行移動と回転の 2 段階の変換を施す。

平行移動 :  $x' = x - 7/2, y' = y - 9/2$   $A' = (-3/2, 1/2), B' = (3/2, -1/2)$

回転 :  $x'' = (3x' - y')/\sqrt{10}, y'' = (x' + 3y')/\sqrt{10}$   $A'' = (-\sqrt{10}/2, 0), B'' = (\sqrt{10}/2, 0)$

2 点  $A'', B''$  からの距離の差が 2 となる点  $P'' = (m'', n'')$  は、 $m''^2 - 2/3n''^2 = 1$  を満たす。

$$\therefore 2n''^2 = 3m''^2 - 3$$

$$\therefore 2(m'^2 + 6m'n' + 9n'^2)/10 = 3(9m'^2 - 6m'n' + n'^2)/10 - 3 \quad \text{回転を逆変換}$$

$$\therefore 5m^2 - 6mn - 3n^2 - 8m + 48n = 100 \quad \dots \textcircled{4} \quad \text{平行移動を逆変換}$$

$\textcircled{4}$  を mod 9 で考える。

表 1.  $5m^2 - 6mn - 3n^2 - 8m + 48n \pmod{9}$

m \ n	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	0	0	3	0	0	3	0	0	3
1	6	0	6	6	0	6	6	0	6
2	4	1	1	4	1	1	4	1	1
3	3	3	6	3	3	6	3	3	6
4	3	6	3	3	6	3	3	6	3
5	4	1	1	4	1	1	4	1	1
6	6	6	0	6	6	0	6	6	0
7	0	3	0	0	3	0	0	3	0
8	4	1	1	4	1	1	4	1	1

$100 \equiv 1 \pmod{9}$  なので、表 1 から  $\textcircled{4}$  が成立するのは、 $m \equiv 2, 5, 8 \pmod{9}, n \equiv 1, 2, 4, 5, 7, 8 \pmod{9}$  のときである。これは、 $m \equiv 2 \pmod{3}, n \equiv 1, 2 \pmod{3}$  と同じ。

(※最初から  $\textcircled{4}$  を mod 3 で考えると、 $m \equiv 2 \pmod{3}, n \equiv 0 \pmod{3}$  の可能性が排除できない) 一方、

$$P''A''^2 = (m'' + \sqrt{10}/2)^2 + n''^2 = m''^2 + \sqrt{10}m'' + 5/2 + 3/2m''^2 - 3/2 = (\sqrt{10}/2m'' + 1)^2 = ((3m' - n')/2 + 1)^2 = ((3(m - 7/2) - (n - 9/2))/2 + 1)^2 = ((3m - n)/2 - 2)^2 = PA^2$$

$$P''B''^2 = (m'' - \sqrt{10}/2)^2 + n''^2 = m''^2 - \sqrt{10}m'' + 5/2 + 3/2m''^2 - 3/2 = (\sqrt{10}/2m'' - 1)^2 = ((3m' - n')/2 - 1)^2 = ((3(m - 7/2) - (n - 9/2))/2 - 1)^2 = ((3m - n)/2 - 4)^2 = PB^2$$

$2 \times 2 \equiv 1 \pmod{3}$  に注意すると、

$$PA^2 \equiv (2(3m - n) - 2)^2 \equiv (n + 1)^2 \pmod{3}$$

$$PB^2 \equiv (2(3m - n) - 4)^2 \equiv (n + 2)^2 \pmod{3}$$

$n \equiv 1, 2 \pmod{3}$  なので、PA、PB のいずれかは 3 の倍数、つまり 3 である。他方は 5 である。

P の可能性は限られるので、個々に確認する。

$P = (2, 8), (5, 9)$  が条件を満たすが、それぞれに対して  $Q = (5, 9), (2, 8)$  が存在する。

→ 逃れ

・  $PB = PA \pm 3$  の場合 :

$$PA^2 - PB^2 = PA^2 - (PA \pm 3)^2 = \mp 6PA - 9 : \text{奇数}$$

これは  $\textcircled{3}$  と矛盾。

**B = (5, 6) の場合 (※ B = (5, 4) の場合と同様)**

$$AB = \sqrt{10} < 4 \text{ なので、 } PA - 4 < PA - AB \leq PB \leq PA + AB < PA + 4$$

PA、PB は整数なので、 $PB = PA, PA \pm 1, PA \pm 2, PA \pm 3$

$$\text{また、 } PA^2 - PB^2 = (m - 2)^2 + (n - 5)^2 - (m - 5)^2 - (n - 6)^2 = 6m + 2n - 32 : \text{偶数} \dots \textcircled{5}$$

・  $PB = PA$  の場合 :

$$n = -3m + 16$$

$$\therefore PA^2 = (m-2)^2 + (-3m+11)^2 = 5(2m^2 - 14m + 25)$$

PA は素数なので、 $PA = 5$  である。

$$\therefore 2m^2 - 14m + 25 = 5$$

$$\therefore m^2 - 7m + 10 = 0$$

$$\therefore m = 2, 5$$

$$\therefore n = 10, 1$$

$\therefore P = (2, 10), (5, 1)$  であるが、それぞれに対して  $Q = (5, 1), (2, 10)$  が存在する。→逃れ

•  $PB = PA \pm 1$  の場合

$$PA^2 - PB^2 = PA^2 - (PA \pm 1)^2 = \mp 2PA - 1 : \text{奇数}$$

これは⑤と矛盾。

•  $PB = PA \pm 2$  の場合 :

双曲線の標準形を使う。そのために、A、B、P に平行移動と回転の 2 段階の変換を施す。

$$\text{平行移動 : } x' = x - 7/2, y' = y - 11/2$$

$$A' = (-3/2, -1/2), B' = (3/2, 1/2)$$

$$\text{回転 : } x'' = (3x' + y')/\sqrt{10}, y'' = (-x' + 3y')/\sqrt{10} \quad A'' = (-\sqrt{10}/2, 0), B'' = (\sqrt{10}/2, 0)$$

2 点  $A'', B''$  からの距離の差が 2 となる点  $P'' = (m'', n'')$  は、 $m''^2 - 2/3n''^2 = 1$  を満たす。

$$\therefore 2n''^2 = 3m''^2 - 3$$

$$\therefore 2(m''^2 - 6m'n'' + 9n''^2)/10 = 3(9m''^2 + 6m'n'' + n''^2)/10 - 3 \quad \text{回転を逆変換}$$

$$\therefore 5m^2 + 6mn - 3n^2 - 68m + 12n = -80 \dots \textcircled{6} \quad \text{平行移動を逆変換}$$

⑥を mod 9 で考える。

表 2.  $5m^2 + 6mn - 3n^2 - 68m + 12n \pmod{9}$

m \ n	0	1	2	3	4	5	6	7	8
0	0	0	3	0	0	3	0	0	3
1	0	6	6	0	6	6	0	6	6
2	1	4	1	1	4	1	1	4	1
3	3	3	6	3	3	6	3	3	6
4	6	3	3	6	3	3	6	3	3
5	1	4	1	1	4	1	1	4	1
6	6	6	0	6	6	0	6	6	0
7	3	0	0	3	0	0	3	0	0
8	1	4	1	1	4	1	1	4	1

$-80 \equiv 1 \pmod{9}$  なので、表 2 から、⑥が成立するのは、 $m \equiv 2, 5, 8 \pmod{9}$ 、 $n \equiv 0, 2, 3, 5, 6, 8 \pmod{9}$  のときである。これは、 $m \equiv 2 \pmod{3}$ 、 $n \equiv 0, 2 \pmod{3}$  と同じ。

(※最初から⑥を mod 3 で考えると、 $m \equiv 2 \pmod{3}$ 、 $n \equiv 0 \pmod{3}$  の可能性が排除できない) 一方、

$$P''A''^2 = (m'' + \sqrt{10}/2)^2 + n''^2 = m''^2 + \sqrt{10}m'' + 5/2 + 3/2m''^2 - 3/2 = (\sqrt{10}/2m'' + 1)^2$$

$$= ((3m'' + n'')/2 + 1)^2 = ((3(m-7/2) + (n-11/2))/2 + 1)^2 = ((3m+n)/2 - 7)^2 = PA^2$$

$$P''B''^2 = (m'' - \sqrt{10}/2)^2 + n''^2 = m''^2 - \sqrt{10}m'' + 5/2 + 3/2m''^2 - 3/2 = (\sqrt{10}/2m'' - 1)^2$$

$$= ((3m'' + n'')/2 - 1)^2 = ((3(m-7/2) - (n-11/2))/2 - 1)^2 = ((3m+n)/2 - 9)^2 = PB^2$$

$2 \times 2 \equiv 1 \pmod{3}$  に注意すると、

$$PA^2 \equiv (2(3m+n) - 7)^2 \equiv (n+1)^2 \pmod{3}$$

$$PB^2 \equiv (2(3m+n) - 9)^2 \equiv n^2 \pmod{3}$$

$n \equiv 0, 2 \pmod{3}$  なので、PA、PB のいずれかは 3 の倍数、つまり 3 である。他方は 5 である。

P の可能性は限られるので、個々に確認する。

$P=(2, 2)$ 、 $(5, 9)$ が条件を満たすが、それぞれに対して  $Q=(5, 9)$ 、 $(2, 2)$ が存在する。→逃れ  
・  $PB=PA\pm 3$  の場合：  
 $PA^2-PB^2=PA^2-(PA\pm 3)^2=\mp 6PA-9$ ：奇数  
これは⑤と矛盾。

### 【解説】

本局は「差が3の素数は2と5のみ」という事実を使った詰将棋です。

初手56歩はこれしかないので、問題は2手目の選択です。

正解は玉を動かさない54歩。

盤上にある2つの玉を簡単に詰ますことのできる二玉詰の手筋は、「玉の両取り」です。

Pの利きは概ね直線状に並んでいるので、両取りを掛けるには55玉を動かさないか、横に動かす手が有力です。でも、単に両取りを掛ければそれで解決ではありません。

問題は、受方持駒にもPがあるため、両取りに対して両方の玉にPを利かす受けがあれば不詰になってしまうことです。

そこで役に立つのが「差が3の素数は2と5のみ」という性質です（証明は容易なので省略します）。

2手目54歩と受けて55玉を動かさなければ、2つの玉の位置の差が3である現状を維持できます。そして75Pに対してはPを打って55玉と25玉に同時に利かす受けはありません。

抽象的な議論ばかりでは実感が湧きにくいので、具体例で確かめましょう。

最終手に対し、85Pと受けても25玉を取れば良いですし、95Pなら55玉を取れば大丈夫。盤は右には広がっていないので、左からPを打って受けることもできません。

唯一の心配は下の方からPを打って55玉と25玉に同時に紐を付ける手があるかどうかですが、Pの利きを見ると、少なくとも $9\times 9$ 盤ではそんな受けはありませんし、3より小さい自然数を含む「ピタゴラス数」がないことを知っている、盤の大きさが無限でも受けがないことが分かります。

解答者の仕事はここまでで充分です。

これ以外の詰め方（余詰）がないことの確認は、作者の仕事です。

作者自身による解説では、作意が成立するこ

との証明も述べられていますが、ほとんどの記述は作意以外の解がないことの証明に費やされています。

大まかに言うと、玉が5段目から外れると、そもそも両取りを掛けること自体が難しくなります。仮に両取りを掛けられたとしても、斜対称位置からPを打って両方の玉に利かす受けがあります。

解答者は「段がずれると詰まなさそう」で済まして良いですが、作者は一つ一つ丁寧に検証し、作意以外の詰手順が存在する可能性を全部潰さねばなりません。

解答者はとにかく一つだけでも詰手順を見つけ、作者は余詰をすべて防ぐ。たとえ数学絡みの問題でも、やるべきことは普通の詰将棋と変わりません。

### 【短評】

#### Larvaさん

ただの両王手なら、2手目は玉の移動もOKです。だが、唯一の両王手なら、2手目ではこのIsardam独特の受けしかありません。

Even though many king moves on move 2 allows a double check, only the Isardam-specific response allows a unique double check.

#### 縫田光司さん

シンプルな表現でよいですね。最終手が詰みになっていることの証明も手頃な難易度になっていて、「詰将棋」と「数学」のバランスがよいと思いました。

#### くろうさぎさん

玉の移動する位置は54玉・56玉のどちらかしかない事は容易に分かるし、この解を見つけるのは簡単ではあるが他に解答がない事の証明は面倒。

#### 一乗谷酔象さん

二間跳びの並びは偶数が入る。

素数は 2,5 を使うしかない。

■ 113-5 神無太郎氏作（正解 2 名）

8×8盤成禁協力詰 5手

8 7 6 5 4 3 2 1

								一
								二
						峯		三
				馬				四
								五
								六
								七
								八

持駒 飛2角

※素:Torus-Prime-Leaper王

【ルール】

• 8×8盤

変則盤の一種。8筋八段の盤を使う。

(補足)

- 一般に変則盤は可成地域の指定も必要だが 113-5 は「成禁」の指定があるため、可成地域の指定は不要。

• Torus-Prime-Leaper (素)

盤があたかもトーラス盤であるかのように動く P (Prime-Leaper)。

(補足)

- 盤の形状によって利きの分布は変化する。

【解答】

14 角 68 素 64 飛 67 角 58 飛 まで 5 手

(詰上り)

8 7 6 5 4 3 2 1

								一
								二
								三
		飛					角	四
								五
								六
		馬						七
		峯	飛					八

持駒 なし

[ 8×8盤上での Torus-Prime-Leaper の利き ]

○	○	○		○	○	○	素
							○
							○
			○				○
		○		○			
			○				○
							○
							○

(○が8路盤上の素の利き)

素/8×8=

$$(0,1)\text{-Leaper} + (0,2)\text{-Leaper} + (0,3)\text{-Leaper} + (0,5)\text{-Leaper} + (0,6)\text{-Leaper} + (0,7)\text{-Leaper} + (3,4)\text{-Leaper} + (4,5)\text{-Leaper}$$

【作者の解説】

◆8×8 盤上での素の利きが①であることの説明

$$\text{素}/8\times 8 = (0,1)\text{-Leaper} + (0,2)\text{-Leaper} + (0,3)\text{-Leaper} + (0,5)\text{-Leaper} + (0,6)\text{-Leaper} + (0,7)\text{-Leaper} + (3,4)\text{-Leaper} + (4,5)\text{-Leaper} \dots \textcircled{1}$$

素数 p に対して、 $p^2 = q^2 + r^2$  を満たす整数 q, r が存在すれば、(q,r)-Leaper が P の構成要素となる。

任意の p に対して、(0,p)-Leaper は P の構成要素である。 …… ②

p=2、3、7 の場合を考えると、

素/8×8 ≡ (0,1)-Leaper、(0,2)-Leaper、(0,3)-Leaper、(0,5)-Leaper、(0,6)-Leaper、

(0,7)-Leaper . . . ③

であり、その他の素数についてもこの範囲に収まっている。

ヤコビの二平方定理から、 $p$  が  $4k+1$  型の素数ではない場合には、上記以外の  $P$  の構成要素はない。

$p$  が  $4k+1$  型の素数の場合には、②以外に  $p^2=q^2+r^2$  を満たす自然数が実施的に 1 組のみ存在する。

自然数  $p, q, r$  が  $p^2=q^2+r^2$  を満たすとき、これら自然数はピタゴラス数と言ひ、自然数  $m, n$  を使って、

$$p=m^2+n^2$$

$$q=m^2-n^2$$

$$r=2mn$$

と表せることが知られている。(q, r は入れ換え可)

$p$  は奇数なので、 $m, n$  の一方は奇数で他方は偶数である。

1)  $m$  が偶数、 $n$  が奇数の場合： $m=2a, n=2b-1$  とおく

1-1)  $a$  が偶数の場合： $a=2c$  とおく

$$q=(4c)^2-(2b-1)^2=16c^2-4b(b-1)-1$$

$$\therefore q \equiv 7 \pmod{8}$$

$$r=8c(2b-1)$$

$$\therefore r \equiv 0 \pmod{8} \quad \text{※例：} m=4, n=1; p=17, q=15, r=8$$

1-2)  $a$  が奇数の場合： $a=2c-1$  とおく

$$q=(4c-2)^2-(2b-1)^2=16(c^2-c)+4-4b(b-1)-1$$

$$\therefore q \equiv 3 \pmod{8}$$

$$r=2(4c+2)(2b-1)$$

$$\therefore r \equiv 4 \pmod{8} \quad \text{※例：} m=2, n=1; p=5, q=3, r=4$$

2)  $m$  が奇数、 $n$  が偶数の場合

1)と同様にして、

$$q \equiv 1 \pmod{8}, r \equiv 0 \pmod{8} \quad \text{※例：} m=5, n=4; p=41, q=9, r=40$$

$$q \equiv 5 \pmod{8}, r \equiv 4 \pmod{8} \quad \text{※例：} m=3, n=2; p=13, q=5, r=12$$

1)、2)から、素 $\diagup 8 \times 8 \ni$  (0,7)-Leaper、(3,4)-Leaper、(0,1)-Leaper、(4,5)-Leaper . . . ④

③、④から  $8 \times 8$  盤上での素の利きは①となる。

【解説】

本局では 2 つの作業が解答者に要求されています。

一つは 8 路盤上での「素」(Torus-Prime-Leaper) の利きを具体的に求めること。

もう一つは「素」の利きを持った王を詰めることで、これは詰将棋における通常の「解図」の作業と同じです。

まずは、9 路盤上の「P」の利きを思い出し

ながら、「素」の利きを考えてみましょう。

9 路盤上の「P」の利きは以下の通りでした。

Prime-Leaper =

$$(0,2)\text{-Leaper} + (0,3)\text{-Leaper} + (0,5)\text{-Leaper} + (0,7)\text{-Leaper} + (3,4)\text{-Leaper}$$

「素」は Torus-Leaper なので、この利きを使って上下方向や左右方向に周回して再び盤上に戻って来ることができます。



(0,7)-Leaper としての利きで8路盤を逆周りすれば、それは(0,1)-Leaperの動きになります。また、(0,2)-Leaperの利きで8路盤を逆周りすれば、それは(0,6)-Leaperの動きになります。

同様の作業を(3,4)-Leaperの動きに適用すれば、それは(4,5)-Leaperの動きになります。

以上のことから、8路盤上の「素」は少なくとも以下の利きを持つことが分かります。

Torus-Prime-Leaper /  $8 \times 8 =$

(0,1)-Leaper + (0,2)-Leaper + (0,3)-Leaper +  
(0,5)-Leaper + (0,6)-Leaper + (0,7)-Leaper +  
(3,4)-Leaper + (4,5)-Leaper

縦横の直線上の利きのうち(0,4)-Leaperだけが登場していませんが、 $8n+4$ は $n$ がどんな自然数でも素数にならないので、当然ですね。

さて、問題は「素」の利きがこれですべてかということです。

答えは Yes。

「素」の利きはこれですべてです。

その証明は作者の解説に述べられています。大まかな筋立ては次の通りです。

2以外の素数はすべて奇数です。奇数は4で割ったとき1余るか、3余るかのどちらかです。

4で割ったとき1余る素数は2つの自然数の平方和で一通りに表せますし、4で割ったとき3余る素数は2つの自然数の平方和では表せません。「素」の跳躍距離が後者の場合は、跳び先が縦横しかないので簡単ですし、前者の場合も8で割った余りに着目して分類すれば、結局は上記の利きに含まれてしまうことを、証明できるというわけです。

少し話がそれますが、この証明に出てくる「ヤコビの二平方定理」は **WFP103-sp** (神無太郎氏作) でも言及されていました。その時はこの定理を使わなくても解けてしまったのですが、今回は「4で割ったとき3余る素数は2つの自然数の平方和では表せない」と主張するところで、活躍の場が与えられています。今度こそこの定理の顔を立てることができたと言えるでしょう。厳密に言えば「4で割ったとき1余る素数は2つの自然数の平方和で一通りに表せる」という主張も「ヤコビの二平方定理」に含まれているのですが、これには「フェルマーの二平

方定理」という名前が付いていて、こちらの方が遥かに有名です。

話を本線に戻しましょう。

こうして「素」の利きが判明すれば、後は通常の解図プロセスに移れます。

「素」の利きは縦横をほとんど埋め尽くすほど強力ですが、持駒も飛飛角なので十分に強力です。縦横以外の「飛び地」のような利きもありますが、強力な持駒をうまく連携させれば「素王」を捕まえられます。

解答者のお一人である一乗谷酔象氏が、詰上りで素王の利きをどう抑えているか示す図を作ってくださったので、使わせていただきます。



着色された箇所が素王の利きです。64飛が素王の跳べないウィークポイントを突く限定打だったこと、4手目67角の移動合をしたおかげで、64飛の利きが横に通り、14角を守っていることを確認してください。

さて、今回の神無太郎氏の素数三部作、いかがだったでしょうか？

「証明」するとなるとちょっと面倒ですが、「だいたいこんなものだろう」というヤマ張り型の解法でも手順だけは求められる作が多いので、詰棋人向けの作品群になっているのではないかと思います。

ただ、この **113-5** だけは「素」の利きを勘で求めるのは難しく、多くの解答者が苦戦されたようです。更に「素」の利きが判明してからも、限定打や移動合を含む手順に気づかないと、強力な素王を捕まえることができません。

数学の問題としても、詰将棋の問題としても手応えのある作品だったと思います。

【短評】

Larva さん

8 × 8 盤で「素」の利きは、「[(0, 1) + (0, 2) + (0, 3) + (3, 4)]-Torus-Leaper」です。((0, 1)と  
言うのに、(0, 7)と考えてもいいです。  
他の利きがないことの証明は：

On the 8\*8 board, the Torus-Prime-Leaper is  
a [(0, 1)+(0, 2)+(0, 3)+(3, 4)]-Torus-Leaper.  
(The (0, 1) movement comes from (0, 7).) To  
prove that it does not have other movements:

縦・横の利きには、(0, 4)だけが欠けています。  
8k + 4 が素数でないことは明らかです。

On the cardinal directions, it is only missing  
(0, 4). Obviously 8k + 4 can never be a prime  
number.

そして、(a, b)は元々の Prime-Leaper の斜め  
の利きとします。だから  $a^2 + b^2 = p^2$  は  
ピタゴラス数です、さらに、a と b は互いに  
素です (q は a と b を共に割り切る場合、q  
は p も割り切ります、でも q = p なら、(a, b)  
は(0, p)・(p, 0)しかありませんが、それは斜  
めの利きではありません)。ゆえに、(a, b, p)は  
原始ピタゴラス数であり、そのすべては (一  
般性を失わず、a は奇数、b は偶数とします)：

Off the cardinal directions, suppose that (a,  
b) is a movement of the original Prime-Leaper.  
Not only are a and b part of a Pythagorean  
triple  $a^2 + b^2 = p^2$ , but they have to be  
coprime too (since if q divides both a and b,  
q must divide p too, but q = p is only possible  
when a = 0, b = p or vice versa, which is  
already excluded). Therefore (a, b, p) is a  
primitive Pythagorean triple, all of which is  
given by (without loss of generality, we can  
assume that a is odd and b is even):

$$(\pm(v^2 - u^2), 2uv, u^2 + v^2)$$

ここで u は奇数、v は偶数、u と v は互いに  
素です。

where u is odd, v is even, and u and v are  
coprime.

v が 4 の倍数である場合、2uv は 8 の倍数の  
で、8 × 8 盤では、(a, b)は縦・横の奇数マス  
の利きの一つにすぎません。一方、 $v = 4t + 2$   
の場合、 $u = 4s + 1$  でも  $u = 4s + 3$  でも、 $v^2$   
 $- u^2 = 8k + 3$  を示すことが出来ます (s, t,  
k はすべて整数とします)。8 × 8 盤では、(a,  
b)は(3, 4)・(-3, 4)のいずれかである、でもそ  
れは同じものです。Q.E.D.

If v is a multiple of 4, then 2uv is a multiple of  
8, and thus on the 8\*8 board, (a, b) is just one  
of the odd movements on a cardinal direction.  
On the other hand, if  $v = 4t + 2$ , no matter  
whether  $u = 4s + 1$  or  $u = 4s + 3$ , we have  $v^2$   
 $- u^2 = 8k + 3$  (here s, t, k are all integers),  
so on the 8\*8 board, (a, b) is either (3, 4) or  
(-3, 4), which are the same thing. QED.

だから、面白い詰将棋になります。  
玉は Leaper ですが、一つの飛車が王手を掛  
けず 6 筋をコントロールするように、結局そ  
れを盤端に置きます。

Afterwards, it is just an interesting tsume  
shogi problem. Even though the royal piece  
is a leaper, it is still useful to put it on the  
edge of the board, so that one rook can  
control the entire file 6 without giving check.

☆Larva 氏は解答だけでなく、「素」の利きがな  
ぜこうなるかの証明も書いてくださいまし  
た。念のため付け加えると、Larva 氏の解答  
の[(0,1)+(0,2)+(0,3)+(3,4)]-Torus-Leaper は  
作意と同じものです。「Torus」を外せば、こ  
れは[(0,1)+(0,2)+(0,3)+(0,5)+(0,6)+(0,7)+(3,  
4)+(4,5)]-Leaper になります。

一乗谷酔象さん

素の効きの確認と詰形の探索に苦戦。  
攻めの角に紐付けさせるための移動合がな  
かなか見えなかった。

■ 113-6 占魚亭氏作（正解 1 名 ※実質正解者なし）

成禁AntiAndernach

協力自玉スタイルメイト 6 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
	王		王						二
									三
									四
					■				五
									六
									七
									八
									九

持駒 金

※■:Imitator

【解答】

42 金 55 角 83 王 [I46] 82 角転 [I73]

28 角転 [I19] 29 角 まで 6 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
				王	金				二
	王								三
									四
									五
									六
									七
								馬	八
								馬	九

持駒 なし

【ルール】

• AntiAndernach

駒を取らない盤上の移動（駒を取る及び持駒を打つ以外の着手）を行うと、着手後に相手の駒となる（玉を除く）。

(補足)

- 細則は Andernach と同様で「駒取り」を「駒を取らない盤上の移動」に読み替える。
- 1) 駒を取らない盤上の移動で二歩になる場合相手の駒にならない
- 2) 駒の向きの転換は成生の選択の後に行われる

3) 駒を取らない盤上の移動の場合に限り、8 段目への桂の不成、9 段目への桂香歩の不成が可能（二歩の例外を除く）

→本誌初出: 第 60 回 WFP 作品展 (WFP68 号)

• Imitator (■または I)

着手をしたとき、その着手と同じベクトルだけ動く駒。この Imitator が駒を飛び越えたり、駒のある地点に着手したり、盤の外に出たりするような着手は禁止。これは王手の判定にも適用される。

(補足)

- 駒を打ったときは動かない。
- Imitator は元の駒と同時に動く

→参照: WFP75 号「Imitator の紹介」

【作者のコメント】

角の動き（連続転を含む）が狙い。

この角の動きは以前から考えていたもので、やっと実現できました。

因みに、成禁は 5 手目を限定するためです。

【解説】

本局は Imitator が生み出す錯覚を利用した、王手が掛かっているように見えるスタイルメイトです。

作者の主眼は 4 手目からの角の連続着手。4 手目いきなり 56 角では 72 玉 [I35] で逃れます。

AntiAndernach では同じ駒が 2 連続で動くと元の所属に戻ります。また、Imitator との相対位置も変わりません。つまりこの 2 手の目的は純粋に Imitator を盤隅に運ぶことだったのです。

しかし、それ以上に厄介なのは最終手が王手に見えること。もちろん 19 の Imitator と 28 角の関係により、これは王手になりません。占魚亭氏は WFP111-8 でも「詰に見えるスタイルメイト」を見せてくれましたが、何度見ても面白いですね。

ではなぜ、29 に打つのが、よりもよって角なのでしょう？ 83 王と 42 金の左への動きを止めるだけなら他の駒でも良さそうです。

しかし、最終手で 29 に打つ駒が角以外なら、最終手に対し 41 金 [I18] の着手が可能です。角を打つ目的は攻方玉への王手をちらつかせて、42 金をピン止めすることだったのです。

なお、「成禁」の条件は 5 手目成・生の非限定防止。それ以外の役目がないのが残念です。

【短評】

占魚亭さん

107-8 を作る前から考えていた手の流れを実現したもの。

自玉詰では出来なかったのですが、自玉スタイルメイトに変更しました。

☆WFP107-8 も「連続転」を主題とした作品でした。その作は 37 角を 37→28→39 と移動する回転型の手順でしたが、本局は 55→82→28 と角が直線上に大きく動くので、とても豪快に感じられますね。WFP107-8 には、たくぼん氏が正解されましたが、本局は残念ながら作者以外の正解者は出ませんでした。

変寝夢さん（※無解）

AntiAndernach を外しても面白い手順でした（余詰あるけど）。

☆攻方玉を 82 から 92 に移せば、余詰が消えて唯一解になりますね。更に「成禁」の条件も外せます。興味のある方は、攻方玉を 92 に移して、単なる「協力自玉スタイルメイト」として解いてみてください。

■ 113-7 占魚亭氏作（正解 3 名）

All-in-Sho協力自玉詰 6<sup>三</sup>  
9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
									六
						王	王		七
									八
									九

持駒 飛

【ルール】

• All-in-Shogi

双方とも、自分の手番のときに相手の駒を動かすこともできる。敵玉を王手がかかる位置に動かしてもいいし、敵の持駒を打ってもいい。ただし、双方とも 1 手前の局面に戻すよ

うな着手は禁手とする。

（補足）

- 1) 相手側の駒を動かすとき、自分側の駒を取らせることはできるが、相手側の駒を取らせることはできない
  - 2) 相手側の駒で自分側の駒を取らせたとき、その駒は相手側の持駒となる
  - 3) 自玉を取らせる手は反則
- 参照：WFP122 号「All-In-Shogi の紹介」

【解答】（※相手の駒を動かす手を v で表記）

31 飛 35 角 13v 角 32 飛 12v 飛 35 角  
まで 6 手

（詰上り）

									9
									8
									7
									6
									5
									4
									3
									2
									1
						飛			一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

最遠打とスイッチバックを入れてみました。

【解説】

合駒で発生させた駒での両王手。

普通詰将棋では困難な狙いですが、All-in-Shogi では相手の駒を打たせることができるので、こんな簡素形で実現できてしまいます。

両王手を構成する駒は最も基本的な飛と角の組み合わせ。途中で自玉に王手を掛けないよう、設置順は角が先で飛が後になります。

この 2 枚の駒を飛 1 枚だけで発生させるのも上手いですね。最後の 35 角は「1 手前の局面に戻すような着手は禁手」という規則により、13v 角と戻すことはできません。

バッテリー（開き王手ができる形）を組む時、玉から近い駒を先に、遠い駒を後に配置する手順は普通詰将棋では珍しいと言われていたのですが、本局は双裸玉でそれを自然に実現しています。

もし All-in-Shogi の紹介記事を書くことがあったら、引用したくなる一局です。

【短評】

変寝夢さん (※無解)

最終手が後手の着手で新鮮だった。  
初手は 3 9 飛だろうと思いつつ最終手開き王手にならないなあとも考えていた。

くろうさぎさん

逆王手を目指せば解ける親切設計。

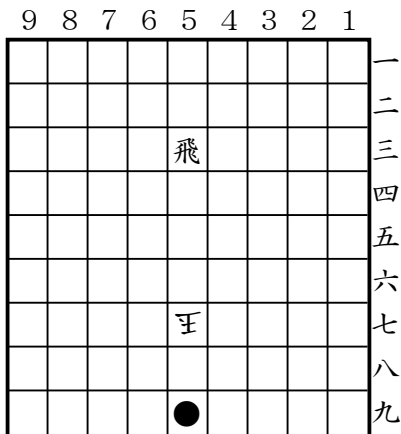
たくぼんさん

きれいに限定されている両王手で美しい。

■ 113-8 占魚亭氏作

(正解 a) 1 名 ※実質 0 名 b) 2 名 ※実質 1 名)

点鏡 All-in-Shogi 協力詰 5 手 (※2 解)

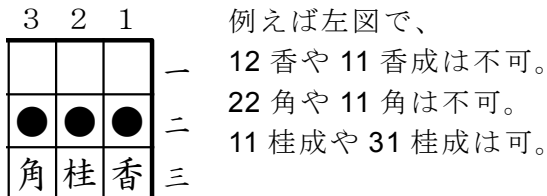


持駒 銀  
※●:石 (着手不可、不透過)

【ルール】

•石 (●)

不透過・不可侵の領域を表す。  
飛び越すことは可能。



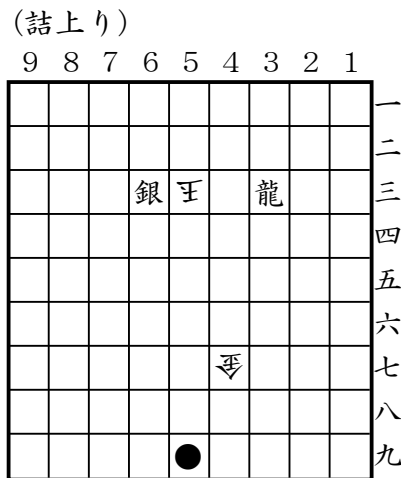
•点鏡

55 に関して点对称な位置にある 2 つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。  
(補足)

•行き所のない駒の禁則は適用されない  
→本誌初出:第 108 回 WFP 作品展(WFP127 号)

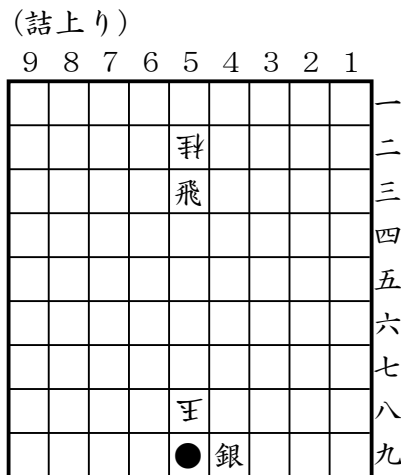
【解答】(※相手の駒を動かす手を v で表記)

a) 54v 玉 33v 飛成 63 銀 47 金 53v 玉 まで 5 手



持駒 なし

b) 58 銀 49v 銀 61v 桂 52 桂 58v 玉 まで 5 手



持駒 なし

【作者のコメント】

点鏡と All-in-Shogi を合わせてみました。この 2 つは相性がいいと思います。  
68 銀、59v 銀、61n 香の筋を消すためにやむを得ず石を置きました。

【解説】

玉を動かして両王手を掛ける All-in-Shogi らしい両王手作品。2 解どちらも最終手は「v 玉」です。初形で王手が掛かっているように見えますが、そうではありません。「点鏡」なので飛と玉の性能が入れ替わっています。

「点鏡」ルールとの組み合わせなので、玉を弱い駒に変身させる手順が予想されますが、その予想に沿った手順は**b)**の方。この手順では玉を桂の性能にするわけですが、「58 銀 52 桂 58v 玉」では、両王手にならないので「53 桂」と飛を取られてしまいます。玉が桂の性能になる代わりに、桂が玉の性能になっていることを忘れてはいけません。

正解は、上の手順の**2**手目に「49v 銀 61v 桂」の2手を挿入すること。一旦銀を退避した後、その銀を桂にしてから**52**桂を実現することで、銀を盤上に残す妙手順です。そして銀が盤上に残ったことにより最終手が両王手となり、**52**桂で**53**飛を取る受けもできなくなります。

難しいのは**a)**の手順の方。

こちらは予想に反し、玉を弱い駒にせず、そのままの性能で詰ませてしまいます。

その代わりに活用するのが All-in-Shogi の「1手前の局面に戻すような着手は禁手」という規則。これにより、玉の利きを実質1つ減らせるので、龍と金の挟み撃ちによる両王手で詰ますることができます。金は持駒にありませんが、「点鏡」で銀を金の性能にすることで調達できます。

この手順ではいかにも縦に使いそうな飛を、敢えて横に使うという発想の転換が必要です。初手に**54v**玉とする手も見えにくく、**a)**手順に作者以外の正解者が出なかったのも、仕方ないように思います。

なお、**59●**の配置は「48 銀 59v 銀 51v 香 52 香 58v 玉 まで 5手」の余詰防止。ただし、これは受方**51**角の配置でも防ぐことができます。**51**角は**33**龍を取れるように見えるので、**a)**の詰上りも感触が良くなると思います。

### 【短評】

**変寝夢**さん（※無解）

初手5 4玉の順が面白かった。

VM2で解かせたら、5 2飛成、4 6玉、5 5銀、4 5玉、5 4玉で詰ませていた。

最終形6 5玉を、局面が左右対称の時に切り捨てる手と思い読まなかったようだ。

バグが直せて助かりました。

**くろうさぎ**さん（※bのみ解答）

1解は桂変換だがもう1解はわからない。

だけど初手玉を動かす何か。

## ■ 113-9 一乗谷酔象氏作(正解 2名※実質 1名) 推理将棋

「さっきの将棋、15手で負けちゃった。開き王手を掛けて勝ったと思ったら不成の手で逆王手の詰みとは参ったよ。」

「どんな将棋だった」

「先手は9手目に玉を動かしたね。こっちは一枚の駒を5回連続で動かした。あと、銀頭の手があったね」

### 【条件】

- 1) 15手目に不成の手で詰んだ
- 2) 14手目は開き王手
- 3) 9手目は玉の手
- 4) 後手は一枚の駒を5回連続で動かした
- 5) 銀頭の手があった

### 【ルール】

#### • 推理将棋

将棋についての会話をヒントに将棋の指し手を復元する。

### 【解答】

76歩 42玉 44角 24歩 26角 25歩  
15角 26歩 68玉 27歩成 77玉 38と  
24飛 34歩 22飛生 まで 15手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	季		季	爵	科	皇	
二		飛				王		飛		
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	
四							歩			
五									角	
六			歩							
七	歩	歩	玉	歩	歩	歩	歩		歩	
八							入			
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 角

### 【作者のコメント】

110-10 Pontamon 氏作の余詰筋から余り手を省いてみました。

開き王手への逆王手で詰む最短手順であれば価値があると考えます。



【解説】

Pontamon 氏の **WFP111-10**(推理将棋 19 手) は開き王手に対して両王手で返すという派手な収束の作品でした (一乗谷酔象氏のコメントでは **110-10** と書かれていましたが、これは **111-10** の誤記だと思います)。この作品は飛による開き王手に対して桂を動かして、これを合駒代わりに使い、その桂と開き王手の香で両王手を掛ける構成になっています。

その作品には複数の余詰指摘があったのですが、余詰を解答した解答者の一人が一乗谷酔象氏でした。

その余詰筋は角を使った開き王手に対して、飛と角の両王手を返して詰める手順でした。本作はその余詰筋から手数調整のための無駄な手を省いて作品化したものです。

**WFP111-10** で条件に書かれていたのは「後手はふたつの駒をそれぞれ 4 回連続で動かした」という文であり、本作の「後手は一枚の駒を 5 回連続で動かした」ではありません。従って、**WFP111-10** の結果稿を丁寧に読んで、ちゃんと余詰筋まで理解した人でないと、これがヒントになることには気付かなかったのではないのでしょうか。実際、作者以外の正解者は同様の余詰筋を解答された、たくぼん氏お一人でした。

出題文では「開き王手に対して両王手で返して詰ませた」などという直接的な表現はありません。条件 1)2) から「開き王手に対して不成の王手で返して詰ませた」という情報が得られるだけです。それが両王手であることは、手数や他の条件から間接的に導き出されるようになっています。従って、**WFP111-10** の余詰筋を知らず、白紙の状態で一から解いた人にとっては、相当の難解作だったのではないかと思います。

【短評】

一乗谷酔象さん

**110-10** の余詰手順の派生。埋もれそうな手順だが、開き王手に対する不成の応手で詰む最短手数であれば価値があると思ひ投稿。

☆確かにこれ以上の手数短縮は難しそうですね。もし、どなたか短縮順を発見できたら、ぜひお知らせください。

たくぼんさん

以前余詰解答で送った 19 手順の短縮版ですね。一つの作品から派生して作品が出来るのもいいものです。

■ 113-10 Pontamon 氏作 (正解 3 名) ※余詰推理将棋

「今日の対局は、13 手目の"23 同と"で詰めたよ」

[条件]

1) 13 手目の"23 同と"の手で詰み

【解答】

26 歩 14 歩 25 歩 13 角 24 歩 22 飛  
23 歩成 42 玉 13 と 32 玉 51 角 23 飛  
同と まで 13 手

(詰上り)

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	皇	科	爵	将	角	将	爵	科	皇	一
二							王			二
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	と		三
四									歩	四
五										五
六										六
七	歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	七
八		角						飛		八
九	香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 飛歩

【作者のコメント】

今回は、作品展 113 回にちなんでるけど、11 手 3 条件ではなく 1 条件 13 手の易しい問題です。

23 地点の"と金"で詰める形と言え、推理将棋最短手順の 7 手詰が思い出されるはず。倍近い手数の 13 手になっているので何か妙手があったり、別の筋で成った"と金"が 23 へ移動するようなことを考えるかも。

実は、棋譜に"同"が付いてしかも"歩成"でもなく"と"にするには 7 手詰に 6 手の追加が必要になっているというだけのことです。

【解説】

推理将棋の基本として有名な 7 手詰のアレンジ作品。詰上りの玉位置が 32 であることも、詰める駒が「23 と」であることも同じです。

違うのは「と金」を作った瞬間に詰めるのではなく、既に作ってある「と金」を「同と」と動かして詰めるところです。そのためには「と金」をどこかに退避する必要がありますが、作意は 13 を退避場所にします。

また、「23 と」を「同と」にするには何か 23 に後手の駒を供給しなければいけません。そのために、邪魔な 22 角を 13 に動かし、82 にいる飛を 22 を経由して 23 へ運びます。

「23 歩成」を「23 同と」にするためだけに、6 手も追加しないとイケないというのが、本作のセールスポイントなのです。

しかし、たったこれだけの条件で 13 手を限定しようとしたのが、そもそも無理だったのかもしれない。本局には以下の 2 種の余詰が指摘されました。

《余詰 1》(一乗谷酔象氏)

26 歩 34 歩 25 歩 44 角 24 歩 32 銀  
23 歩成 42 玉 13 と 33 玉 22 飛不成 23 銀  
同と まで 13 手。

《余詰 2》(たくぼん氏)

26 歩 34 歩 25 歩 42 玉 24 歩 33 玉  
23 歩生 42 飛 22 歩成 32 金 35 角 23 金  
同と まで 13 手。

いずれも非限定多数。作意解は、くろうさぎ氏お一人でした。

【短評】

くろうさぎさん (※作意解)

シンプルな条件だが唯一の問題は 12 手目に相手に渡す駒。

一乗谷酔象さん

余詰：32 銀～23 銀は金も可。  
後手の手順前後いろいろあり。

たくぼんさん

32～23 へ行く駒は銀でも良いし、手順前後もあるので余詰でしょう。ちょっと見落とす筋ではないと思うけどなあ。

■ 113-11 青木裕一氏作 (正解 4 名)

点鏡協力詰 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
				角	角				三
			科		科				四
		科		王	科				五
									六
									七
									八
									九

持駒 なし

【解答】

54 角生 56 飛 同角 55 玉 57 飛 まで 5 手

(詰上り)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
				角					三
			科		科				四
		科		王	科				五
				角					六
				飛					七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

合効かずに詰上りが狙いです。  
受方が角桂を持っていないため、詰上りで 54 に合駒すると、56 の角で玉が取れます。

【解説】

協力詰では認められていないはずの「すかし詰」を擬似的に実現した作品。

詰上り図をご覧ください。王手を掛けているのは飛の性能になった 53 角。受方は 54 に合駒をしたいのですが、角も桂も品切れのため、何を合駒しても 56 角がその駒の性能になって自玉への王手となります。従って合駒はできず、この時点で詰みとなるのです。

すかし詰は「合駒はできるが省略する」もの

ですが、本局はあくまで「合駒できそうなのにできない」状態です。でも、形だけ見るとすかし詰に見えますね。

他のルールで「擬似すかし詰」を実現した例としては「第 47 回神無一族の氾濫」の第 5 番、神無太郎氏作があります ([http://k7ro.sakura.ne.jp/overflow/hr47\\_r.pdf](http://k7ro.sakura.ne.jp/overflow/hr47_r.pdf))。この作品では中立駒を使って、合駒できそうなのに合駒できない詰上りを実現しています。

できないはずのことを擬似的に実現する構想は、その仕組みを考案する構想力だけでなく、それを解答者に確実に印象づける表現力も問われます。本局は、作者の狙いが解答者にしっかり伝わっており、構想・表現の両面で成功している作品だと思います。

【短評】

占魚亭さん

なるほど、角桂が品切れなので合駒出来ないわけですね。

変寝夢さん（※無解）

この最終形は一度は閃いていましたが、46と66に逃げ道があると勘違いしました。3手目までは直ぐ見えただけに残念。まあ何時間あったとしても詰まないんだけど。

くろうさぎさん

上手く前に効かない駒がないことをカモフラージュしている。

たくぼんさん

詰上りを考えていると初形の角桂配置の意味に気がきました。



■ 113-12 青木裕一氏作（正解 4 名）

点鏡協力詰 71手

							歩	玉	一
									二
							歩		三
							桂	銀	四
							香	銀	五
							香	銀	六
皇	歩						香	銀	七
科	科	歩						歩	八
玉								玉	九

持駒 なし

【解答】

- 13 銀成 96 香生 14 全 21 玉 11 全 同玉
- 14 銀 97 香生 13 銀成 96 香生 14 全 95 香
- 15 全 21 玉 11 全 同玉 15 銀 96 香
- 14 銀 97 香生 13 銀成 96 香生 14 全 95 香
- 15 全 94 香 16 全 21 玉 11 全 同玉
- 16 銀 95 香 15 銀 96 香 14 銀 97 香生
- 13 銀成 96 香生 14 全 95 香 15 全 94 香
- 16 全 93 香 17 全 21 玉 11 全 同玉
- 17 歩 94 香 16 歩 95 香 15 歩 96 香
- 14 歩 97 香生 13 歩成 96 香生 14 と 95 香
- 15 と 94 香 16 と 93 香 17 と 92 香
- 18 と 91 香 19 と 21 玉 11 金 まで 71 手

(詰上り)

皇							歩	玉	金	一
										二
							歩			三
							桂			四
							香			五
							香			六
	歩						香			七
科	科	歩								八
玉									と	九

持駒 なし

【作者のコメント】

1 サイクルの手数が増幅する連捨てです。最終的な目的は 19 の金を取ることにあります。そのために通り道にある銀を捨てる必要があります。

その際、次のサイクルにつなげるために銀を成って元の位置に戻しておく、というより香をその点対称の位置に置いておく必要があります。

【解説】

捨てる駒が往復運動をする極めて珍しい連捨て趣向。しかも銀や香が縦に往復するという、見たことがないような駒の動きが登場します。

まずは全体の構図を見てみましょう。

玉は右上隅にいますが、左下隅の八段目には桂2枚と歩が配置され、2段目の王手は掛けられなくなっています。「点鏡」を、王手を増やす手段ではなく、王手を制限する手段として使っている点だけでも、新機軸と言えそうです。

しかし、本当の新機軸はここから。

王手を掛けるには「点鏡」で銀を香にするしかありませんが、銀を香に変えた後、すぐに捨ててしまつては王手が継続できません。

そこで銀を三段目に運んで、成銀にして戻す手順を挟みます。これで香の位置を戻して、次の銀にバトンタッチする準備を整えるのです。

連捨て型の趣向は普通詰将棋でも多く作られてきましたが、大抵は成って捨ててそれで終わりです。捨てる駒が引き戻されるような、片道移動でさえ珍しい部類に属します。

捨てる駒が往復する極めて珍しい例としては、第50期塚田賞長編賞を受賞した、山崎隆作「蟹取り」があります。

【参考】捨てる駒が往復する連捨て趣向作

山崎隆 「蟹取り」

詰将棋 127手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

金	歩	歩			銀		歩	飛	一
	銀			金	飛	歩			二
歩		角						歩	三
金	歩	桂		王					四
	香	科	香	歩					五
	香								六
	香								七
角									八
									九

持駒 歩13

(近代将棋,1977年12月,塚田賞)

53 金 同玉 13 飛成 42 玉 51 角成 同玉  
62 桂成 同玉 73 銀成 51 玉 52 銀成 同玉  
63 全 42 玉 53 全 32 玉 43 全 41 玉

42 歩 51 玉 52 歩 61 玉 62 歩 72 玉  
83 歩成 62 玉 53 全 61 玉 62 全 同玉  
73 と 52 玉 63 と 42 玉 53 と 32 玉  
43 と 41 玉 42 歩 51 玉 52 歩 61 玉  
62 歩 72 玉 83 香成 62 玉 53 と 61 玉  
62 と 同玉 73 杏 52 玉 63 杏 42 玉  
53 杏 32 玉 43 杏 41 玉 42 歩 51 玉  
52 歩 61 玉 62 歩 72 玉 83 香成 62 玉  
53 杏 61 玉 62 杏 同玉 73 杏 52 玉  
63 杏 42 玉 53 杏 32 玉 43 杏 41 玉  
42 歩 51 玉 52 歩 61 玉 62 歩 72 玉  
83 香成 62 玉 53 杏 61 玉 62 杏 同玉  
73 杏 52 玉 63 杏 42 玉 53 杏 51 玉  
52 歩 61 玉 62 歩 72 玉 63 杏 82 玉  
81 金 同玉 83 香 91 玉 82 香成 同玉  
73 杏 91 玉 82 杏 同玉 83 龍 91 玉  
93 龍 81 玉 92 龍 同玉 65 角 81 玉  
82 金 同玉 83 金 81 玉 82 歩 91 玉  
92 金 まで 127 手

上に紹介した作品では、捨てる駒は香または歩であり、往復の方向は横でした。

本局のように捨てる駒が縦に往復する作品、ましてや銀が往復する（それに加えて捨てない香も往復する）作品というのは、見たことがありません。もちろん縦往復と横往復では創作難度も桁違いです。

作者のコメントにもあるように、連捨て趣向で1サイクルの長さが徐々に長くなるという点でも本局は新機軸です。（「蟹取り」の場合は1サイクルの長さは一定でした。）

本局は画期的な連捨て趣向作ですが、連捨て趣向には駒を捨てる目的があります。それを説明して解説を終わらしましょう。

本局の「連捨て」の目的は19金の入手です。そのために、邪魔な攻方駒をどんどん捨てていったわけですね。

ちなみに99に金が置いてあるので、19に置く駒は歩以外ならほとんど何でも構いません。ただ、歩やと金は最終手が打歩詰になるのでだめです。この収束を見ると、打歩詰誘致や打歩詰回避のため対称位置に来る駒を選択する構想作も作れそうですね。

【短評】

占魚亭さん



金を取るために柱を崩す。  
点鏡らしい趣向手順で面白かったです。

**変寝夢さん** (※無解)

次の銀が出た時に、香の王手をするために下がっていくのか。  
この初形はやはり余詰がきついのかな。

**くろうさぎさん**

単純にして楽しめる作品。

**一乗谷酔象さん**

遠い筋で連係する攻防が見事な傑作。

**たくぼんさん**

点鏡ルールを利用した趣向で楽しめました。  
まだまだどんな趣向が隠れているのか楽しみです。



■ 113-13 変寝夢氏作 (正解 a)7名 b)7名)

リパブリカン協力白玉詰 4手 (※2解)

9 8 7 6 5 4 3 2 1

						飛			一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
				王					八
							香		九

攻方持駒 なし  
受方持駒 n香  
※受方持駒香は中立駒

**【ルール】**

• **リパブリカン**

最終手を指すと同時に任意の空きマスから一つ選んで玉を置き、詰んでいる局面を作る。  
(補足)

- 1) 双玉等において詰める対象でない玉は通常の玉と同じく、最初から最後まで盤上に存在する
  - 2) 詰める対象の玉は「盤上にあるが見えない」わけではなく、詰むときに盤に出現する。従って玉がどこかにいる前提での着手の合法・非合法の判定は行わない。ただし、最終手では玉を置いた後の配置で合法局面かどうかの判定を行う。
  - 3) 単玉の場合最終手を除き王手義務はない。白玉系のルールのように、詰める対象の玉と王手義務の対象となる玉が異なる場合は、王手を掛けるべき玉に対する王手義務がある。
- 参照：WFP92号「リパブリカン詰の紹介」

• **中立駒** (「區」あるいは「n駒」)

どちらの手番でも動かせる駒。

(補足)

横向きの字か横に n を付加して表記。

取り方や動かし方は以下の細則に従う

- 1) 中立駒の動きは現手番の駒としての動きとなる (利きが非対称な駒の場合に要注意)
- 2) 中立駒は現手番の駒として成れる場合のみ、成ることができる
- 3) 中立駒はどちらの手番でも取ることができ、持駒になる。この時、所属は取った側の持駒だが中立性は失わず、再び盤に戻ったときには中立駒として振舞う。
- 4) 中立駒は現手番側の駒を取れない。相手側の駒や、中立駒は取れる。
- 5) 二歩禁が適用される。手番を問わず、中立駒の歩や通常の歩がある筋に、更に中立駒の歩を打つことはできない。
- 6) 中立駒は行き所ない駒にならない。
- 7) 中立駒でも 白玉への王手は反則。白玉への王手となっているかどうかの判定は、現手番が終了し、相手側が着手する前に行う。

→参照：WFP61号「中立駒の紹介」

【解答】

a)38 飛成 57 玉 48 龍 同銀成(+49 王) まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
									六
					王				七
						王			八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 飛 n 香

b)38 飛生 48n 香 41n 香生 28 銀生(+48 王) まで 4 手

(詰上り)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
					香				一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
				王	王	飛	香		八
									九

攻方持駒 なし  
受方持駒 なし

【作者のコメント】

本命は後者。

n 香のやりとりより、リパブリカン独特の逆算できない詰め上がりが目につくか。

【解説】

本局はリパブリカン作品ですが、目立つのは受方持駒の中立香。当然、これが主役となる展開が予想されます。

その予想を裏切らないのが b)の解。

開き王手に対し自玉を合駒代わりに使うリパブリカンならではの手筋が登場します。

その前に合駒で中立香を盤上に置き、それを最下段に不成で移動させる手筋が挟まれます。

中立香を成ってしまうと、最終手が攻方玉への王手になりませんし、中立香がどこか途中で止まると、最終手に対し 41n 香成などの受けが残ります。中立駒は定義上「行き所のない駒」にならないので、これを逆用して「成」を防ぐ、中立駒の代表的な手筋の一つです。

中立香の最遠移動と、銀の不成を組み合わせて、空中に浮いた自玉を捕まえる詰上りはとても鮮やかですね。

問題なのは a)の方。

これは純粹に「自玉探し」で、最初から 49 王が置いてあっても同じなので、これ単体で出題されていれば容易に解けたことでしょう。

ところが、この手順では中立香はまったく使われません。そのため、この解を見つけられない解答者や、見つけても何か勘違いしているのではないかと疑心暗鬼に陥った解答者が出てしまいました。

飛と銀の関係を見ると a)は「飛が成ると銀も成る」、b)は「飛が成らないと銀も成らない」という構成になっており、形式的には 2 解物の体裁を満たしているのですが、2 解の手順内容と質には大きな差があり、あまり適切な構成だったとは思えません。

b)単体にするか、a)でも中立香が活躍するような構成にすべきだったと思います。

【短評】

占魚亭さん (※a のみ正解)

b の最終手 (最遠打) が上手いですね。

☆占魚亭さんは「b)3 八飛成、7 九玉、4 九竜、5 一 n 香 (+5 九王) まで」の解答でした。これは最終手に対し 58 龍の受けがあります。盤端への最遠打も中立駒の代表的な手筋ですが、正解は最遠移動でした。

縫田光司さん

リパブリカンルールや中立駒の特徴を存分に活かした片方の解と、素朴極まりないもう片方の解とのギャップが、一周回って逆に味わい深く思えてきます。(解いたときは、凝った手順の方はわりとすぐに見つかったのですが、もう一方の手順が完全に盲点に入っ



いてえらく苦勞しました。で、見つけてみれば「なんじゃこりゃ」と（笑）。

**くろうさぎさん**

ルールの勘違いがないか自信がなし。

**はなさかしろうさん**

- 1)38 飛生、48n 香、41n 香生、28 銀生(+48 玉)まで
- 2)38 飛成、57 玉、48 龍、同銀成(+49 玉)まで
- 1)は n 香が効いていて楽しい手順ですが、2)はなんというか…間違えているのでしょうか??

**一乗谷酔象さん**

n 香の現れない手順にあれっと思ったが、n 香を使う順は生 2 回に対し、n 香を使わない順は成 2 回と手順の対比がいい感触だった。

**たくぼんさん**（※b のみ正解）

1 解はすぐ分かったのですが、もう 1 解が分りません。盲点に入ってますね。

■ 113-14 変寝夢氏作（正解 7 名）

All-in-Sho 協力詰 5 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
					王		●		三
					●		飛		四
							金		五
							歩		六
						飛			七
									八
									九

持駒 なし  
※●:石（着手不可、不透過）

【解答】（※相手の駒を動かす手を v で表記）

24v 玉 23 玉 24 飛 同飛生 14v 玉 まで 5 手

（詰上り）

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
								●	三
						●	飛	王	四
								金	五
								歩	六
									七
									八
									九

持駒 なし

【作者のコメント】

3 手目 1 4 v 玉で詰んでいるように見えるが、2 3 玉で不詰（1 4 の地点が違う）なので先に 1 4 の駒を消去するのが狙いです。

【解説】

All-in-Shogi の規定は「1 手前の局面に戻すような着手は禁手」。「1 手前の位置に戻すような着手は禁手」ではありません。

これが問題になるのが 3 手目。

ここで 14v 玉だと、次に 23 玉と戻せてしまいます。23 玉は元の位置に戻る着手ですが、その間に 14 飛が消えているので「1 手前の局面」とは異なるのです。

逆に言えば飛がいなければ 14v 玉で詰めることができるので、事前にこれを捨てるのが 3 手目の 24 飛なのです。受方は同飛で飛の消去に応じますが、うっかり 15 に利かさないう、不成でこれを取るのが肝要です。

この作品を見て「14 飛の消去を原形消去にできないか？」と思う方もいらっしゃるでしょう。All-in-Shogi らしい手段で原型消去するにはどうするか。ぜひ考えてみてください。

【短評】

占魚亭さん

邪魔駒消去。4 手目がキモですね。

縫田光司さん

手数も短くて手が限られている形なのに、最初に解いたときもかなり悩んで、解答を書く際に答えを忘れていてもう一度かなり悩むはめになりました。なんでしょう、よほど盲

点に入りやすい手順なのではないでしょうか。

くろうさぎさん

14 飛は邪魔であったわけでもないが・・・

はなさかしろうさん

24 玉、23 玉、14 玉とすると 23 玉と戻せて、ここで再度の 14 玉は禁手…「一手前の局面に戻す手は禁止」というルールは繊細で強力ですね。両方の駒を動かせる、というルールが霞んでしまいそうです。

一乗谷酔象さん

初手と最終手だけ相手の駒を動かす。

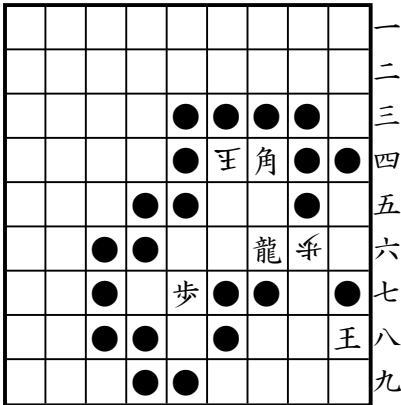
たくぼんさん

詰上りがなかなか浮かばず。  
手は狭いんだけどなあ。

■ 113-15 たくぼん氏作 (正解 3 名)

協力自玉詰 102 手

9 8 7 6 5 4 3 2 1



攻方持駒 なし

受方持駒 なし

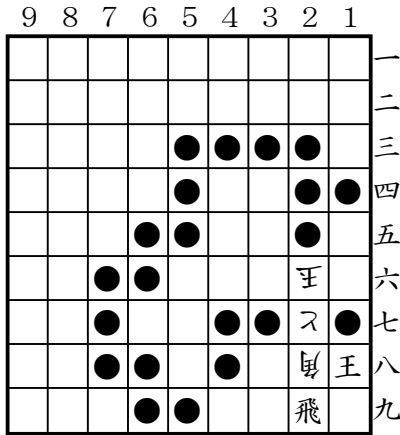
※●:石 (着手不可、不透過)

【解答】

46 龍 34 玉 36 龍 44 玉 46 龍 45 角  
同龍 同玉 27 角 36 飛 同角 同玉  
34 飛 35 角 同飛 46 玉 36 飛 57 玉  
46 角 56 玉 57 角 45 玉 46 飛 35 玉  
26 飛 44 玉 35 角 同玉 36 歩 46 玉  
35 歩 36 角 同飛 45 玉 67 角 56 歩  
46 飛 35 玉 45 飛 26 玉 46 飛 36 歩  
同飛 15 玉 16 飛 同玉 49 角 38 飛  
同角 26 玉 46 飛 35 玉 45 飛 同玉

27 角 36 飛 同角 同玉 16 飛 26 角  
同飛 35 玉 57 角 同歩成 36 飛 44 玉  
46 飛 45 角 同飛 同玉 67 角 56 飛  
同角 同と 46 飛 34 玉 36 飛 35 角  
同飛 44 玉 34 飛 45 玉 46 歩 同と  
44 飛 36 玉 34 飛 35 歩 同飛 26 玉  
36 飛 同と 44 角 35 飛 同角 15 玉  
26 角 同玉 29 飛 28 角 27 歩 同と  
まで 102 手

(詰上り)



持駒 なし

【作者のコメント】

石囲いシリーズの 1 作。  
在庫はこれが最後なのでまた創作しようと思ひます。

【解説】

まずはこの種の作品を解く時の定跡である、詰型の想定を行いましょ。

最初に確認するのは玉の逃げ道。特に、最も逃走防止しにくい場所が重要で。本局の場合それは 19 地点。これを塞ぐには「28 と」か「28 角」の形しかありません。

「28 と」の場合、27 歩を発生させて成らせるわけですが、そのためには玉を 38 または 39 まで運ばなくてははいけません。それには 58 から 49 のルートが玉が通らねばなりません、飛角歩しか使えない本局ではそれは無理です。無理やり 39 に到達させても、飛や角を使い切ってしまうので、「28 と」の形は作れません。

「28 角」の形が決まれば、29 飛に対し 28 角合し、「27 と」を決め手にする詰上りも想定できるでしょう。

次に考えるべきは、この「と金」をどこで作

るかです。27で作ると自玉への王手になるので、57で作って自玉の近くへ運ぶことになります。

この時、「67角 56歩」でと金作りの準備をするわけですが、67に打った角をどうやって回収するか少し不安になりますね。

でも大丈夫。玉を右辺に追って67角を49角として活用すれば、再び飛角を自由に使えるようになります。先程「58から49のルート」を玉が通らねばなりません、飛角歩しか使えない本局ではそれは無理です」と書きましたが、玉が通れないルートをなぜ設定しているのか、これで理由が分かります。

ここまで来れば、解図に必要な要素はすべて出揃いました。序盤で盤上の歩を取り払って、必要な場所で再利用することを可能とし、後は「と金」の作成と運搬を無駄なく実現する手順を求める作業が待っています。狭い場所と限られた駒を上手に使う必要がある、なかなか大変ですが、解けたときの達成感はひとしおでしょう。

密室型の協力自玉詰は以前から作られてきましたが、通常の駒で密室を作る場合、密室の形状は自由にはできません。

「石囲いシリーズ」は通常の駒で密室を作る制約を破棄した分、大きな自由を獲得しています。この自由がどんな作品を生み出すのか、これからも注目していきたいと思います。

## 【短評】

### 占魚亭さん

難解パズル。と金を作るまでは勿論のこと、作った後も駒繰りに悩みました。

### 変寝夢さん (※無解)

15と16のスペースの使い方が素晴らしく思いました。

### くろうさぎさん

最終局面の想定からかなりの部分が逆算できるし、最初は完全限定であることを考慮すればかなり絞れる。最後に打つ歩をどうやって捻出するかが悩みどころでした。

## 【総評】

### 変寝夢さん

はい、一つも解けませんでした。  
11は惜しかったんだけどなあ。  
残念。

### Larvaさん

予想通り、先月に引き続き忙しかったので、その三つの問題だけを解答しました。

「素数」による変則駒を定義することは、数学と詰将棋を繋ぐ立派な方法だと思います。なぜなら、素数自体は誰も知っているものですが、あまり知られていない数論の結果（例えば、原始ピタゴラス数）に絡めることができるからです。

As expected, I continued to be busy this month, so I only solved those three problems. I think using prime numbers to define fairy pieces is an elegant way to connect math with tsume shogi, because prime numbers themselves are something everyone knows, but it can easily link to some less known results in number theory, like the primitive Pythagorean triples.

それらの駒自体も、詰将棋の観点から面白いものです。無限盤では、「P」の利きの数量は無限であり、それに対して合駒することもできません。でもその利きは十分にまばらなので、攻め駒として使用するのなかなか難しいです。一方、8×8盤で「素」の利きは、盤の大きさに比べいっぱいあるため、やや強すぎると思います。でも、それも弱点があり（例えば(0, 4)）、捕獲することも可能です。さらに、「Torus-Prime-Leaper」はその利きを簡潔に表示していることも面白いです。

The pieces themselves are also interesting from a tsume shogi perspective. Even though the Prime-Leaper has an infinite number of movements (on an infinite board) and cannot be blocked, the movements are sparse enough that it is difficult to use as an attacking piece. On the other hand, the Torus-Prime-Leaper for a 8\*8 board seems

overpowered as it has a lot of movements for a small board, but still have weaknesses (like the ones at (0, 4)) that make it fairly capturable. It is also interesting that "Torus-Prime-Leaper" is a rather concise description of that set of movements.

#### 縫田光司さん

面白そうな作品が多かったのですが、あまり時間が取れずにほとんど解けなかったのが残念でした。

113-4 が解けたのはよかったものの、できれば 113-3 も解きたかったですね…。

結果稿を楽しみにしています。

#### たくぼんさん

仕事が忙しかったのも輪をかけましたが、まったく歯が立たないものが多くて消化不良でした。

☆今回の作品群はとてもレベルが高く、充実していました。ただ、出題数 15 題はやはり多過ぎたようです。筆者も作品を分析する時間が足りず、消化不良気味です。一回の出題数に上限を設けることも考えてはいるのですが、単純に投稿順に出題すると、新規の投稿者が長く待たされかねません。難易度に関係なく出題数だけ一定にするのも問題がありそうですし、今のところ決断しかねています。当面、大量に投稿があったときには、作者個々に調整をお願いする現在の運用を続けたいと思いますので、どうかご理解とご協力をお願いします。

以上



# Fairy of the Forest #60 結果発表

- 2019年06月20日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」
- 2019年08月15日：投稿締切
- 2019年08月20日：出題
- 2019年09月15日：解答締切
- 2019年09月20日：結果発表

## 結果発表

【今回の解答者】(敬称略、到着順)  
(○は全題正解者)

- 神無七郎、○占魚亭、
- 青木裕一、○たくぼん

■ 60-01 神無七郎 協力詰 45手

### 受方持駒：桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
						皇	皇		三
					逃	飛		玉	四
					歩	と			五
					王		王	王	六
					桂		桂	桂	七
								桂	八
						歩	桂	桂	九

### 持駒 なし

- 24 飛 25 桂 同と 36 玉 28 桂 同と寄
- 34 飛 35 桂 同と 26 玉 38 桂 同と寄
- 24 飛 25 桂 同と 36 玉 48 桂 同と寄
- 34 飛 35 桂 同と 26 玉 18 桂 同と
- 24 飛 25 桂 同と 36 玉 28 桂 同と
- 34 飛 35 桂 同と 26 玉 38 桂 同と左

24 飛 25 桂 同と 36 玉 34 飛 同香  
35 と 26 玉 18 桂 まで 45 手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
							皇		二
					逃	皇		玉	三
					歩	と			四
					王		王	王	五
					桂		桂		六
					桂		桂		七
						歩	桂	桂	八
									九

### 持駒 なし

作者—作品というより原理図ですが、そのまま投稿します。

☆「飛の王手→桂合→攻方同と→玉逃げ→8段目の桂打→受方同と」という一連の手順を繰り返して、1筋のと金を移動させ、18桂打までの詰上りを狙います。余計な装飾がないぶん、狙いがストレートに伝わったと思います。

占魚亭—と金を誘導して利きを外す。楽しい作品でした。

☆ただ、と金の動かし方には注意が必要な箇所があります。

作者—6手目の二者択一がポイント。作意の「同と寄」は1サイクル分損をするように見えますが、「同と上」としてしまうと、23手目の18桂が指せません。

青木裕一—偶奇性の関係でと金の動かし方が限定。

☆ここを過ぎれば、後は手なり。飛捨てが入って還元玉の詰上りは気が利いています。

たくぼん—まさに倉庫番パズルですね。楽しさ満載です。

受方持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
			飛		料	玉	歩	金	六
				歩	桂	歩	歩	歩	七
				香		桂	王	入	八
			金	香	飛		桂	入	九

持駒 角

39 角 29 玉 28 角 同玉 29 飛 38 玉  
 28 飛 49 玉 29 飛 39 角 同飛 48 玉  
 49 飛 38 玉 29 角 同と上 39 飛 28 玉  
 29 飛 18 玉 19 飛 28 玉 18 飛 39 玉  
 19 飛 48 玉 18 飛 38 角 49 歩 39 玉  
 38 飛 29 玉 18 角 19 玉 39 飛 28 玉  
 29 飛 38 玉 28 飛 49 玉 29 飛 48 玉  
 28 飛 38 歩 49 歩 39 玉 29 飛  
 まで 47 手

(詰上り図)

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
									一
									二
									三
									四
									五
			飛		料	玉	歩	金	六
				歩	桂	歩	歩	歩	七
				香		歩		角	八
			金	香	歩	王	飛		九

持駒 なし

青木裕一—まず、詰上りが見えにくい。詰上りが分かって、手数短縮で苦勞する。

☆使える駒が限られているので詰上りは何とか想定できますが、角合をするタイミング等、手数短縮に悩まされます。

占魚亭—8 マスのパズル。飛車の繰り方に何度か躓きました。

☆玉の行動範囲も限られているのですが、下手に攻めると堂々巡りになってしまいそうです。

たくぼん—詰上りの型は予想が付きませんが、意外と辿り着けなかった。ポイントは16 手目と金上がりと終盤に一度打った49 歩を消すところでした。

☆「攻方 18 角・29 飛・49 歩+受方 39 玉・38 歩」の詰上り形が想定できます。そのためには歩2 枚が必要なため、まず1 筋の2 枚のと金を剥がしにいきます。15 手目 29 角、同と上に、39 飛~19 飛という手順がそれです。また、受方に 38 歩合をさせる必要がありますが、29 手目に打った 49 歩を取らせるのが 40 手目 49 玉です。

神無七郎—詰上りは一つしかないのが想定しやすかったのですが、2 手短縮に苦勞しました。26 手目 48 玉~28 手目 38 角は盲点になりやすい手順です。角の入手を急がず、一旦溜めを作るのが良いですね。

☆25 手目 19 飛には咄嗟に 29 角合としてしまいましたが、一旦 48 玉と逃げ 18 飛に 38 角合とするのが気づきにくい手順。角を 38 の地点で取らせて、38 飛~18 角の形を作るのが急所でした。パズル的内容で好評だったのですが、以下のような指摘が……。

神無七郎—66 飛・46 桂の2 枚は不要に思えるのですが、これは創作の当初は必要だった駒が途中から不要になったパターンでしょうか？

作者—歩の配置をいじっているうちにいらなくなつたようです。推敲不足でした。訂正しておわび申し上げます。

☆というわけで、不要駒を省いた【改良図】を掲載しておきます。作意は不変です。



(改良図)

後手の持駒：なし

										一
										二
										三
										四
										五
						玉	歩	金		六
				歩	桂	歩	歩	歩		七
				香		桂	王	ス		八
			金	香	飛		桂	ス		九

持駒 角

【総評】

たくぼんー中編 2 作でしたが、難易度もほどほどでいい選題でした。

☆簡単すぎて物足りないわけでもなく、難しすぎて歯が立たないわけでもない。そういう意味では、バランスはよかったようです。あとは、数ですね。

## Fairy of the Forest #61 課題発表

■ 2019 年 09 月 20 日：課題発表：(協力詰)  
「自由課題」

□ 2019 年 11 月 15 日：投稿締切

□ 2019 年 11 月 20 日：出題

□ 2019 年 12 月 15 日：解答締切

□ 2019 年 12 月 20 日：結果発表

■ 課題発表

作品内容はなかなか充実しているのですが、いかんせん数が足りません。手数は問いませんので、何とぞ作品をお寄せください。

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

推理将棋第112回出題解説

推理将棋第112回解説 担当 Pontamon

今回の選題は、9手詰1題と112回に因んだ「11手詰2条件」2題です。(担当 NAO)

第112回 出題2017年5月14日、解答締切2017年6月10日、解答20名

\*\*\*\*\*

112-1 初級 渡辺秀行 作  
同馬と寄る(その1) 9手

「昨日の将棋どうだった？」  
「うん、9手までの詰みで負けちゃったよ。63に同馬と寄る手に参ったね。  
2手目62に着手したときは大丈夫と思ったのになあ」

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・2手目は62地点への着手
- ・63同馬と寄る手があった※

※棋譜に「寄」と付く必要はありません

\*\*\*\*\*

出題のこぼ(担当 NAO)

63同馬の直前、63地点への後手着手駒を推理しよう。  
追加ヒント  
トドメは飛車。

\*\*\*\*\*

推理将棋112-1 解答

▲76歩 △62飛 ▲44角 △64歩 ▲53角成  
△63飛 ▲同馬 △32金 ▲41飛 まで9手

(条件)

- ・9手で詰んだ
- ・2手目は62地点への着手(2手目△62飛)
- ・63同馬と寄る手があった(7手目▲63同馬)※

※棋譜に「寄」と付く必要はありません

後手の持駒：なし

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	王	飛	爵	科	皇		一
							丞	皇		二
歩	歩	歩	馬		歩	歩	歩	歩		三
			歩							四
										五
			歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩		七
								飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香		九

持駒 歩

条件の注釈ですが、普段の将棋の会話では「引いた」とか「寄った」という言葉を使っても「引」や「寄」が棋譜に付く手とは限りません。また、会話にある「63に同馬と寄る手に参ったね。」の「参った」は気持ちの話であって投了したことはありません。▲63同馬で詰んだと勘違いした方が居るようです。(詳細は短評をご覧ください)

本問は解図者を惑わすような会話ではないので、状況をそのまま信じれば解けるはず。2手目の62地点への着手は、のちに63地点で"同"で先手に取らせるための準備だという予想は正しいです。

となると、その駒種は何か？△62玉ではその後王手放置の反則になるので、62着手の候補は金銀飛の3択になります。先手の攻め駒としては、63に馬が居る状況になるのが分かっているので、同で取った駒で詰めるのに使い易い駒は何かを考えると詰み形が見えてきます。

参考1図は、▲63同馬で金を取り、後手は△72銀で飛の横利きを遮る協力手を指して、▲62金と王手をした局面です。▲53角成のまま金を持っていれば詰みなのですが、馬が63では△42玉へ逃げられてしまいます。後手△72銀の代わりに△32金に▲41金としても51地点が空いていて失敗します。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科			王	金	銀	科	皇	一
	飛	銀	金				馬		二
歩	歩	歩	馬		歩	歩	歩	歩	三
			歩						四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考2図は、▲63同馬で銀を取った後、王手をした銀が取られない形を考えてみただけで、もちろん△32玉と逃げられてしまいます。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科		王		金	銀	科	皇	一
	飛			王			馬		二
歩	歩	歩	馬	銀	歩	歩	歩	歩	三
			歩						四
		歩							五
									六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

ということで2手目の正解は△62飛です。飛の打ち場所を作る後手の△32金の協力手のおかげで詰ますことができました。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

渡辺(作者)「金でないことに気付くかどうか？」

はなさかしろう「63馬には41飛金が形。8手目の32金限定が面白いです。」

■推理将棋では協力手は必須。

小山邦明「良くあるのは41金の収束形だと思いますが、うまく飛を入手しての41飛での収束は面白かったです。」

■2手目62金だと61が空くので41金では詰まない仕掛け。

Pontamon「簡単そうに見えたのにどうしても理屈が合わない。それどころか諸々の条件を無視しても63馬で詰む手順がない。早とちりで自滅していただけのことで、63同馬が最終手でないことが分かった瞬間に解けました。(参ったなので63同馬で投了したと思いこんでました)「同馬と寄る(その2)」があるのかな？」

■参ったで参ったのは新担当でした。出題時は一解答者なのでコメントが載りました。

斧間徳子「入門者向けの超易問。」

■入門者向けはベテランにとっては超易問でも入門者には難問か？

諏訪冬葉「△64歩が角のルートを限定してくれました」

■▲96歩、▲97角、▲53角成では63へ馬が寄るときに飛が63にいません。

ほっと「7手目の「寄る手」という条件は必要？それはともかく、その2以降も期待。」

■その○まであるのか興味津々。

波多野賢太郎「これはヒントなしで解けました。6三馬なら4一に金か飛車打ちの詰上がり予想しやすいですね。単に6三馬という条件なら別詰があるのもわかりましたが、寄るという条件がないと別詰があるのかはわかりませんでした。」

占魚亭「問題文に「寄る」がないと余詰があるんですか？」

■ 諸々の条件を外したとしても 9 手詰で「63 馬寄」の手はないようです。2 手目条件を外すと、左金が 63 へ来たところを▲53 角成した馬で▲63 同馬として▲41 金までの詰みがあります。

小木敏弘「53 に馬を作るのがウマイ手でした。」

■ 44 から成る手がウマイ手ですね。

高田明浩「始めて本出題解けました。よろしくお願いたします。」

■ これからも解答をお願いします。

RINTARO「これは易しかったです。」

■ ウォームアップに最適な初級問題。

竹野龍騎「分かりやすい。破壊力のある右四間飛車戦法を粉碎（違）」

■ うっかり 63 へ上がったのが命取り。

原岡望「割に素直に解けました。入門に好適。」

■ 9 手作にも入門向け問題がまだありそうです。

キリギリス「最終図▲63 馬より▲41 飛は予想できるので逆算で手順を考えました。」

山下誠「6 三に移動する後手の駒が飛車と分かれれば簡単でした。」

S.Kimura「馬で取るのは金だと思っていたら、飛車でした。」

隅の老人B「敵も味方も 63 同馬の実現に向かって邁進。助け合うことは、良いことですね。」

榊彰介「空いた 4 一の空間に飛車がぴったりでした。」

■ 41 へは金か飛か？ 2 手目条件で決まりまし

た。

飯山修「最終手同馬と勘違いし苦戦」

■ 新担当と同様に悩まれた方が居ましたか。

\*\*\*\*\*

正解：19 名

はなさかしろうさん 小山邦明さん

Pontamon 諏訪冬葉さん ほっとさん 波多野賢太郎さん 渡辺さん 小木敏弘さん 高田明浩さん RINTARO さん 竹野龍騎さん 原岡望さん キリギリスさん 山下誠さん 飯山修さん S.Kimura さん 隅の老人Bさん 占魚亭さん 榊彰介さん

\*\*\*\*\*

### 1 1 2-2 中級 Pontamon 作 データベースへの登録作業 1 1 手

「教授、この 1 1 手詰みの棋譜ですが、文字のにじみや虫喰いでほとんど読めません」

「どれどれ数字の一部しか見えないが、初手と 2 手目の筋が異なるのは判るね」

「あと読めるのは 1 0 手目の着手地点の 8 4 と最終手の一部だけなんですが…」

「最終手の"同角"の文字は読めるね」

「同角の次の一文字がにじんでいて…。一文字だから"成"でしょうか？」

「いや、"生"と書く時もあるから、そうとは限らない」

「これではデータベースへ登録できません。どうしましょう」

「最終手を"同角不成"にして、この手順で登録しておきなさい」

「教授、どうして全手順が解ったのですか？」

(条件)

・ 1 1 手で詰んだ

・ 2 手目は初手と異なる筋への着手

・ 最終手は 8 4 地点への同角不成

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

"8 4 同角不成"の角はどこから動いたのか？  
推理しよう。

追加ヒント

7 手目は 9 3 地点の同角不成で桂を取る。

\*\*\*\*\*

▲76歩 △94歩 ▲55角 △74歩 ▲82角不成  
△93桂 ▲同角不成 △62玉 ▲64桂 △84歩  
▲同角不成 まで11手

(条件)

- ・11手で詰んだ
- ・2手目は初手と異なる筋への着手(初手7筋、2手目9筋: ▲76歩、△94歩)
- ・最終手は84地点への同角不成(11手目▲84同角不成)

詰上がり図

後手の持駒: なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇		銀	金		金	銀	桂	皇	一
			王				角		二
			歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
歩	角	歩	桂						四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 飛歩

本作は最終手の棋譜指定問題ですが、▲84同角不成から読み取れる情報にはどんなものがあるのでしょうか。

- ・最終手の84地点は中段なのに"不成"が付くのであれば、その角は後手陣から動いたもの。
- ・73や62、51から84へ動いて王手になるのであれば73か62から角が動いた空き王手。
- ・9筋から動いたのであれば93から。
- ・"同"で取った駒は何か? △84歩に▲同角不成が濃厚。その場合は△同飛と取られないように飛が移動しているか先手が飛を取っている必要がある。他の駒を取ったとするとこれに加えて△84同歩と取られない準備も必要になる。
- ・玉から離れた84角だと、73桂の移動合いを封じる必要がある。
- ・玉が73だと、最終手の▲84同角不成の支えは取った飛を打つことになるが、参考1図のように玉の退路が多すぎて詰んでいません。

参考1図

後手の持駒: なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	桂	銀	金		金	銀	桂	皇	一
							角		二
		王	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
歩	角	歩							四
									五
	飛	歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考1図手順

▲76歩、△94歩、▲55角、△74歩、▲82角不成、△62玉、▲93角不成、△73玉、▲86飛、△84歩、▲同角不成

2段目や3段目での空き王手は移動合いできる駒が在り過ぎるし、先手の手数が足りなくて空き王手の配置へ持っていきません。

となると、最終手の▲84同角不成は93に居た角が移動したもので、"同"で取るのは83の歩なので10手目は△84歩。その他、残っている課題は

- ・事前の飛移動か、先手が後手の飛を取る
- ・81の桂が残ってはいけない

玉位置を考えると、居玉のままでは△62金や△62銀で合いが可能なので、51でも73でもないのであれば62となります。初手と2手目の着手が異なる筋で、飛と桂を取って9手目に93に角が居る手順となると、▲76歩、△94歩、▲55角、△74歩、▲82角不成、△93桂、▲同角不成、△62玉、▲何か、△84歩、▲同角不成で参考2図。残っているのは先手の1手ですが▲64桂がピッタリ。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇		將	王		王	將	將	皇	一
			王				皇		二
			歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
歩	角	歩							四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 飛桂歩

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者)「51 飛では 72 の 退路があるので 64 桂。玉まわりや7～9筋がスカスカな形が気に入ってます。」

はなさかしろう「なるほど、最終手84での角不成は詰めにくそう。62の玉を合駒なしで詰めるのが本命で、桂との連携も入りますね。角の軌道がおもしろかったです。」

■玉とは離れたところで一回り。

小山邦明「気持ちの良い収束形で大満足の一局でした。飛打ちの手順は、一步届かない感じですね。」

■9手詰め唯一の空き王手(両王手)の▲92飛から▲64角なら十分間に合いますが最終手が▲84同角不成なので飛の出番はなさそうです。

斧間徳子「44桂～24角は前例があるが、左サイドは珍しい。Pontamonさんの最近の作品は条件付けが非常に巧妙で感心させられます。」

■おもちゃ箱では19-2の9手詰が44桂～24角ですね。

諏訪冬葉「他の玉位置は手数がかかるので62

玉はすぐ確定したのですが、桂馬を消す方法に手間取りました。」

■93へ跳ねるのが盲点でしたか。

ほっと「この詰上りは初めて見たような気がする。」

■左右反転パターンはあったようです。

波多野賢太郎「これは悩みました。詰上がりがなかなか浮かびませんでした。初手と2手目の条件から、4手目に7四歩で飛車を取るんだらうなと思ったんですが、その飛車を使わないのが予想外でした。桂馬を使うとはうまい手があったものですね。」

■最終手に△同飛とされないための飛取りでした。

渡辺「教授、この手順だと同角成でも成立しますよね」

■「好きな方を書いて良いぞ」(成、不成は不問)。105-1の注釈に違和感を感じたのが作図のきっかけ。

小木敏弘「やっかいな後手右桂の逆利用が気持ち良い。」

■取るのが遅くなった方が都合が良いなんて…。

RINTARO「66～93ルートだと後手の手が1手多く、先手の手が1手少ない。全てを解決するのが、55～82～93ルート。上手いもんだ。」

■手順の発見には運も必要？

竹野龍騎「ヒント待ち。詰み形は見えず、理屈も分からなかった。こんな詰み形だったとは！出題文が長すぎるように思います。」

■条件にすると2条件。推理将棋は会話をもとに復元すると言っても、状況説明が読み物に近かったですね。

原岡望「ヒントに助けられました。回り道で根



こそぎ取るのが早道」

■条件は「2手目は初手と異なる筋への着手」。解答の2手目と4手目が逆になっていました。解けているのに残念。

キリギリス「最後、玉は62(または51)と思われるので、9手目の局面で角は93のはずなのですが、▲64桂はなかなか思い付きませんでした。」

■▲93同角は、84へ行くための移動だけが目的ではありませんでした。

山下誠「最終手の8四角の時に玉の退路を塞ぐ駒は？飛車と決めつけて迷路をさまよいました。」

隅の老人B「角と飛の協力と思って、大苦戦。角の相棒は桂でした。」

■普通は大駒の飛を取ったら使うものですから。

飯山修「この作だけ相変わらずヒント待ちでしたが、93桂には啞然。24角、42桂の筋は覚えているのに左側になっただけで解けないのは情けない。」

■解答では94桂になっていましたがコメントが93桂でしたので誤記と判断されて正解になったようです。

S.Kimura「角単騎での詰みを目指していましたが、81の桂馬を取ることを考えていたのが幸いして、歩頭桂を思い出すことができました。」

■手筋や詰み形の記憶の引き出しが多いと解き易くなります。

占魚亭「そうか、飛車を取る順があったか。52に移動させる順を最初に考えたので気付くまで時間がかかりました。」

榊彰介「教授の話から、最終手「不成(生)」だと詰むが「成」だと詰まない手順を考えていましたが、解説出来ませんでした。」

■さすがに逆はないでしょう。不成なのに詰む手順だということで「不成」で記録させたのでしょう。

\*\*\*\*\*

正解：17名

はなさかしろうさん 小山邦明さん

Pontamon 斧間徳子さん 諏訪冬葉さん

ほっとさん 波多野賢太郎さん 渡辺さん

小木敏弘さん RINTAROさん 竹野龍騎さん

キリギリスさん 山下誠さん 飯山修さん

S.Kimuraさん 隅の老人Bさん 占魚亭さん

\*\*\*\*\*

112-3 上級 渡辺秀行 作

遠隔詰その2

11手

「昨日の将棋11手で詰んだんだって？」

「うん。とどめは9段目の着手だったよ」

「それは遠いねえ。9手目の歩はそういう意味だったのか」

(条件)

・11手で詰んだ

・9手目は歩

・止めは9段目の着手

\*\*\*\*\*

出題のこぼ(担当 NAO)

"9手目歩"の意味とは？9段目の手で詰む形を推理しよう。

追加ヒント

9段目に馬を引けるよう88地点に角が成る。

\*\*\*\*\*

推理将棋112-3 解答 担当 Pontamon

▲76歩 △42玉 ▲33角不成 △32玉 ▲88角

成 △24歩 ▲77桂 △23玉 ▲66歩 △12玉

▲89馬 まで11手

(条件)

・11手で詰んだ

・9手目は歩(9手目▲66歩)

・止めは9段目の着手(11手目▲89馬)

詰上がり図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	科	銀	金		金	銀	科	香	一
	飛						角	王	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
							歩		四
									五
		歩	歩						六
歩	歩	桂		歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	馬	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

「止めは」の解釈に迷うかもしれません。読み方によっては、9段目に着手した駒で止めを刺している（詰めた）場合と、9段目の着手の駒は王手をしていないが詰んでいるので止めの着手と言っている（つまり最終手は空き王手の手）場合があるかもしれません。

追加ヒントを見ると前者であることが確定ですが、出題のことばでは「9段目の手で詰む形を推理」とのことなので、解説担当のようなへそ曲がりだと空き王手の可能性も検討してしまいます。

と言うのも、最終手が9段目とのことなので後手陣に居るであろう玉を9段目の駒では直接の王手はしていないとの考えが浮かぶからです。（ミスディレクションには引っ掛からないぞ！の意気込み）

110-3「遠隔詰その1」の時に最終手が9段目での空き王手は検討済みかもしれませんが、結論から言えば、最終手が9段目での空き王手での11手詰はありません。「最終手が最下段の着手での空き王手で詰める最短手順は何手なのか？」は研究テーマになりそうですね。

ベテランの方だと、過去作の10-3まじー作「銀の横の馬」は、本作の9手目と11手目が入れ替わっていた空き王手での詰み手順（本作の9手目の歩の条件は、110-3が余詰にならないために必要な条件となっています）、103-2 Pontamon 作「とどめは3段目の初王

手」は同様の10手の単騎詰などがあってので、9段目着手と聞いただけでピンと来たことでしょう。知っていれば簡単だけど、初見の方には超難問だったはずです。本作は後手の12玉を馬単騎で詰める手順ですが、この手順の馬単騎では攻め方の手数が3手（▲96歩～▲94歩）余ります。（参考1図）

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	科	銀	金		金	銀	科	香	一
	飛						角	王	二
歩	歩	歩	歩	歩	歩			歩	三
歩						馬	歩		四
									五
		歩							六
	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 歩

参考1図の手順

▲96歩、△42玉、▲95歩、△32玉、▲94歩、△24歩、▲76歩、△23玉、▲33角成、△12玉、▲34馬

元になっている馬単騎10手詰では後手に2手の余りがあります。攻め方に必要な着手は、角道を開けて、角成して、1マス馬を引くという3手で済みます。（参考2図）

参考2図

後手の持駒：歩

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
香	科	銀	金	王	金	銀	科	香	一
	飛								二
歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩		三
						歩			四
								歩	五
	歩	金							六
歩			歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
玉	角						飛		八
香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	九

持駒 なし

本作の 11 手だと、玉とのすれ違いのために 33 への角の着手は不成にすることが必要なので、攻め方の手数が増えなくても、馬になるための 1 手が必要なので余っている手数は 2 手のままです。成り場所を 88 にして 9 段目着手を最終手に指定し、▲77 桂と▲66 歩を強要して余裕の 2 手を消費しています。

直感や過去作や短手数作の応用を見破るのも解図力のひとつかと思えます。駒種別の単騎詰の最短手数を書いておきますので手順を研究され、別の機会に出題があったらサラッと解いて、まわりの方を驚かせてください。(例：詰将棋パラダイスの購読者でしたら 2019 年 7 月号の推理将棋 404 番)

単騎詰とは、その駒以外の攻め方の駒を盤上から全て取り除いても詰んでいるものです。

龍単騎 8 手  
馬単騎 10 手  
飛単騎 10 手  
角単騎 11 手  
桂単騎 10 手  
香単騎 11 手

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

渡辺 (作者) 「角を取ると手が足りない。」

はなさかしろう 「9 段目までの 11 手、有力な候補がいろいろありましたが意外に詰みにくい。幸い 103-2 でおさらいをしていたのでこの筋も候補に入っていました。」

小山邦明 「いったん元の角の位置に成って戻ってくるのは 89 馬の実現のためですが遠隔詰とのマッチングがとても良いと感じました。」

Pontamon 「やはり▲89 馬までの「その 2」の出題がありましたね。」

斧間徳子 「お馴染みの詰上りですが簡素な条件付けに好感。」

諏訪冬葉 「前回 (110-3 の遠隔詰) さんさん読んだ手順なので瞬殺でした。」

■衝撃を受けた経験がものをいう。

ほっと「こんな 9 段目の着手もあったのか。」

■驚きの形。

波多野賢太郎 「遠隔詰第 2 弾と、序盤に関する条件がないことから、今度はこの出だしと推測しました。そのうち、一二玉に八九角の形を閃きました。八九は馬でしたが、思ったよりすんなり解けました。条件がシンプルなのが良く、いい作品だなと思いました。」

■裏読ですね。序の条件が無い場合の多くは初手▲76 歩、3 手目は角が出て行く手順ですが後手の序に関する条件が無い場合はこの序の 4 手が多いでしょうか。

小木敏弘 「76 歩が角道を開けるだけでなく桂の跳ねる場所になってました。33 の歩だけ取って戻る角の動きが意外でした。」

■33 で角成が出来ないので元位置へ戻って成りました。折角の馬の利きを遮る桂跳ねは意外。

RINTARO 「ヒントを見て詰み形が浮かんだ。9 手目歩のみの条件で全手順限定。素晴らしいです。」

■9 手目歩は詰みとどんな関係があるのか？解き始めてピンと来る人は少ないかと。

竹野龍騎 「前は角だったので今回は飛の予想は外れ。前回考えた 12 玉型の詰み形を目指してなんとか解決。」

■予想は「その○」シリーズのあるある。

原岡望 「これもヒントに助けられました。端玉定跡を忘れて角を取るようでは未熟ですね。」

■「その 1」での角取りの印象が残ってたようですね。

キリギリス 「ヒントより最終局面▲89 馬▲67 歩△12 玉(または△23 玉)が想定できたので、むしろ簡単でしたが、ヒントを見るまで全く考

えが浮かびませんでした。」

■追加ヒントで出題のことばの9手目歩の意味が見えたようです。

山下誠「この詰み形は馬が最遠でもいいんですね。最終ヒントを見るまで全くひらめきませんでした。」

■最終手が最遠となる底地点。本作では玉までは斜め7マス。8マス離れた最遠の王手は手数がかかります。両王手の1方が8マスになっている96-3はなさかしろう作の15手が最短でしょうか。

飯山修「過去問10-3はしっかり覚えてました。」

■最終手が▲66の空き王手の作品ですが、途中の着手の▲89馬も印象的だったのでしょう。

S.Kimura「ヒントを見るまで、89馬で詰ますという発想がありませんでした。」

■9手目歩の条件が▲89馬への道標でした。

隅の老人B「3手目が好手。11手で詰まされるなんて、米長先生もビックリ。」

占魚亭「77桂～66歩が趣き深い手順。」

■馬単騎には余裕があるので、ゆるりと過ごせます。

榊彰介「ヒント待ちでも解けず。馬にすることとは最終手は8九馬だと思いますが、詰む形が見えません。」

■単騎詰めや合い利かずの詰形が結構出てくるので過去作品のおさらいをしましょう。

\*\*\*\*\*

正解：18名

はなさかしろうさん 小山邦明さん

Pontamon 斧間徳子さん 諏訪冬葉さん  
ほっとさん 波多野賢太郎さん 渡辺さん 小  
木敏弘さん RINTAROさん 竹野龍騎さん  
原岡望さん キリギリスさん 山下誠さん

飯山修さん S.Kimuraさん 隅の老人Bさん  
占魚亭さん

\*\*\*\*\*

(総評)

はなさかしろう「11手2条件はどちらも、困難な最終手の実現問題。方針が立てやすく、取り組みやすいですね。」

■闇雲に進むよりもゴールが分かっていると安心。

Pontamon「近況報告：詰パラ5月号から年間購読を始めました。短い会話を習得しなければ...。」

■解説もダラダラと長いぞ！

斧間徳子「今回は前例のある手順ばかりだったので、5分足らずで3題解けました。早く解けてしまうとやや物足りなく感じてしまう。骨のある作品も1題あるとうれしい。」

■易問から難問までのバランスを取れるように皆さんからの作品投稿をお待ちしております。

波多野賢太郎「今回は2番に相当時間を使いました。悩めば悩むほどいろいろ考えてしまい、ハマってしまいますね。開き王手とかも考えてしまいました。しかし、今回は久しぶりにノーヒント解答ができました。」

■ゴールが見えているのに脇道が多かった。

渡辺「実質一問なので楽できました。」

小木敏弘「今回は角の動きが面白かったです。」

■何と言っても角の手は多いので、変わった動きのものが作品になりやすいようです。

RINTARO「今月もヒントさまさまでした。」

■考え処をひとつだけ残すヒント投入ができるか新担当は不安です。

竹野龍騎「好作づくし。特に渡辺氏の作品はい

つも理屈の通った佳作。」

■理詰めで解けると、してやっつりの満足感いっぱい。

原岡望「パラと△切が近く苦戦。まずこちらから片付けて一息。」

■パラはヒントが出ないので先に片付けてしまうのも良いかと。

隅の老人B「最近、物事を考えるのが面倒になる。かくてはならじ。

せめて、「おもちゃ箱」の推理将棋を考えよう、その結果は？」

占魚亭「近頃、絶不調なのでなかなか手が見えませんが、頑張って締切日に全問解きました。」

榊彰介「久しぶりの解答でしたが、一問しか解けませんでした。また、一問でも解けたら解答します。」

■解けなかった問題の短評も作者の励みになります。解けてもいなくても締め切り日の解答送付をよろしくお願ひします。

\*\*\*\*\*

推理将棋第112回出題全解答者： 20名

はなさかしろうさん 小山邦明さん

Pontamon 斧間徳子さん 諏訪冬葉さん

ほっとさん 波多野賢太郎さん 渡辺さん

小木敏弘さん 高田明浩さん RINTAROさん

竹野龍騎さん 原岡望さん キリギリスさん

山下誠さん 飯山修さん S.Kimuraさん

隅の老人Bさん 占魚亭さん 榊彰介さん

\*\*\*\*\*

### 推理将棋第117回出題解説

推理将棋第117回解説 担当 Pontamon

今月も9手、10手、11手の短編3問を出題します。(担当 NAO)

第117回 出題2017年11月14日、解答締切2017年12月10日、解答21名

\*\*\*\*\*

### 117-1 初級 Pontamon 作 駒打ちは駒の無いところへ 9手

「9手目に桂を打つ手で勝ったよ」  
「桂打ちのとどめはいろいろあるけど一番多い64桂かな？」

「4手目の64歩がそのまま居たから同じ地点には打てないよ」

(条件)

- ・9手目の桂を打つ手で詰んだ
- ・4手目は64歩

\*\*\*\*\*

出題のことば (担当 NAO)

ずばり、詰み形を推理しよう。

追加ヒント

6手目は7手目の角打ちのための協力手。

\*\*\*\*\*

推理将棋117-1 解答

▲76歩 △34歩 ▲22角成 △64歩 ▲21馬  
△54歩 ▲53角 △52飛 ▲63桂 まで9手

(条件)

- ・9手目の桂を打つ手で詰んだ (9手目▲63桂)
- ・4手目は64歩 (4手目△64歩)

詰上がり図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	丞	王	丞	爵	馬	皇	一
				遊					二
歩	歩	歩	桂	角	歩		歩	歩	三
			歩	歩		歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

桂は唯一の合い駒が利かない駒なので、桂での王手は桂を取るか玉が逃げるしかないのですが、桂打ちで詰むということは玉に逃げ場所がないことになります。

物理的に玉のまわりが駒で埋め尽くされていて行き場所が無い場合と、駒がない地点があっても全て攻め側の駒が利いていてそこへ動くことができないわけです。

桂打ちで詰みなら先手は桂を入手する必要があるので、▲76歩、△34歩、▲22角成、△64歩（指定条件）、▲21馬までの5手になります。

最終手は桂を打つ手ですが「桂の着手」と勘違いして6手目以降 △42玉、▲35桂、△51金右、▲43桂成（参考1図）としてはいけません。

参考1図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵		王	王	爵	馬	皇	一
	飛			王					二
歩	歩	歩		歩	圭		歩	歩	三
			歩			歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 角 歩

6手目からは、4手目で空いた63地点への桂打ちで詰ますように、玉の退路を封鎖する▲53角と頭の丸い角を補う協力手△52飛のための△54歩、▲53角、△52飛、▲63桂となります。

類型としては、10-1タラババ作「お手々つないで」が桂位置が左右反転した▲43桂までの作品でそれと同じ詰み上がりは第61回の練習問題になっています。（参考2図）会話で、一番多いのは64桂となっています。

参考2図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	爵	王	王	爵	馬	皇		一
			飛						二
歩	歩	歩	歩	角	桂		歩	歩	三
				歩	歩	歩			四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 なし

実は過去作品で最終手が63桂と41銀の作品が無い（投稿当時）というのが作図のきっかけだったようですが、9手ですので特別珍しいという手順ではありませんので初級の客寄せとしては良かったでしょう。

それではみなさんの短評をどうぞ。

（短評）

Pontamon（作者）「桂打ちでのトドメはいろいろあると書いても、この条件なら第一感はずいぶん63桂だったことでしょう。」

小木敏弘「歩を突きすぎて居玉で詰まされました。王飛接近も敗因。」

■後手の4手のうちの3手が歩の手。でも条件で指示されたのは64歩だけ。

小山邦明「64歩の形だと63桂と打ちたくなる。」

S.Kimura「64歩の条件から63桂が予想できたので、54歩の発見は容易でした。」

諏訪冬葉「64歩とついているので素直に63に桂馬を打ちます。」

■はい、それが自然の流れです。

斧間徳子「客寄せに相応しい素直な問題。」

波多野賢太郎「後手6四歩なら6三桂での詰みが真っ先に浮かぶので、これはわかりやすかったです。初級にふさわしいいい問題ですね。」

■9手だとひねくれた条件では作りにくい。

RINTARO「詰み上がり図の推察が容易なので易しいが、6~8手目の手順がピッタリなのがいいです。」

榊彰介「詰め上がり一手前の飛車回りがびったり。」

■52地点を埋める駒があったのが幸運。

ほっと「最終手64桂ってそんなに多いのかな？」

飯山修「64よりも43や44のほうが多いような気がしてましたが」

竹野龍騎「64桂が一番多いのか……。」

はなさかしろう「初級らしく手なりで、64桂までの方がむしろ思いつきにくかった。こちらは確かに非限定が多いですね。」

■生の桂だと、手順前後や非限定の手順数もさることながら詰み形も64が一番多く、手順数では90手順です。44桂の形は62銀/62飛の違いの2種類6手順だけです。

原岡望「さすがにすぐ解決」

山下誠「居玉で詰むとすれば最終手は4三桂か6三桂と素直に考えました。」

後憂生「桂打で詰み」。それなら、まずは桂を取らなくちゃ。」

占魚亭「条件から63桂迄なのは確実なので、すぐに見えました。」

キリギリス「ひねりはありません」->▲6三桂->△5二飛->▲5三角->△5四歩->...という順でさくっと解けました。」

■9手の初級なのでサクっと解けます。

\*\*\*\*\*

正解：21名

小木敏弘さん 小山邦明さん 斧間徳子さん

RINTAROさん ほっとさん のくせにさん

大塚康平さん Pontamon 飯山修さん 原岡

望さん 竹野龍騎さん 山下誠さん 後憂生さん

波多野賢太郎さん 占魚亭さん キリギリスさん

はなさかしろうさん S.Kimuraさん

榊彰介さん 諏訪冬葉さん テイエムガンバさん

ん

\*\*\*\*\*

117-2 中級 NAO 作

玉の手が6回

10手

「序盤だけ見てたけど、さっきの将棋どうだった？2手目は初手と同じ筋、4手目は3手目と同じ筋と、相手は君が指した手と同じ筋に真似して指していたね」

「たったの10手で負けちゃった。玉の着手が6回もあって勝負はこれからだと思ったのに」

(条件)

・10手で詰んだ

・初手と2手目は同じ筋の着手

・3手目と4手目は同じ筋の着手

・玉の着手が6回

\*\*\*\*\*

出題のことば(担当 NAO)

6回のうち先手玉の手は何回か、後手玉の手も推理しよう。

追加ヒント

先手玉は9筋で詰まされる。後手は、攻めと関係ない玉移動が2手入り、残りの3手で攻める。

\*\*\*\*\*

推理将棋 117-2 解答 担当 Pontamon

▲68玉 △62玉 ▲78玉 △72玉 ▲86歩 △34歩 ▲87玉 △77角成 ▲98玉 △76馬 まで10手

(条件)

・10手で詰んだ

・初手と2手目は同じ筋の着手(▲68玉~△62玉)

・3手目と4手目は同じ筋の着手(▲78玉~△72玉)

・玉の着手が6回(初手▲68玉、2手目△62)



玉、3手目▲78玉、4手目△72玉、7手目▲87玉、9手目▲98玉)

詰上がり図

後手の持駒：歩

	9	8	7	6	5	4	3	2	1	
一	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	
二		飛	王							
三	歩	歩	歩	歩	歩	歩		歩	歩	
四							歩			
五										
六		歩	銀							
七	歩			歩	歩	歩	歩	歩	歩	
八	玉	角						飛		
九	香	桂	銀	金		金	銀	桂	香	

持駒 なし

本問の解図では直感や閃きが必要かもしれません。鍵になるのは10手詰にしては着手回数が多い玉の着手です。出題のことばも閃きのきっかけになるかもしれません。10手詰ですので、互いに着手は5手ずつ。片方だけでは6回の玉着手はできませんが、先後半分ずつの3回でしょうか？

もし、先手と後手の玉着手が同数でないとすると、先手4回に後手2回が濃厚です。攻め方である後手が玉の手ばかり指していても仕方ないような気がしますね。(裏をかいて、後手の玉着手が多い作品もあるのですが) また、先手が5回で後手が1回という配分も考えにくいです。

先手の玉着手が4回と聞いて何か閃きませんか？

そうです、4手あれば玉は端へ行けるのです。出題だと半年の違いがあるのですが、結果稿ではつい先日公開された112-3渡辺秀行作「遠隔詰その2」での解説を思い出せると思います。

112-3の結果稿の参考2図では後手の2手余りを1筋の歩を突くことで消費していましたが、本問では後手玉の移動で消費すれば良いのです。追加ヒントでは「攻めと関係ない玉移動が2手入り」となっていますが、112-3の結果稿が出ていなかったなのでこのヒントが助

けになったかどうか。

ということで、先手は98地点を目指して玉を移動させるのですが、玉着手6回の実現と同じ筋の着手の条件を両立させることで手順が確定します。

すなわち、▲86歩と突くのは5手目になります。初手から、▲68玉、△62玉、▲78玉、△72玉、▲86歩です。後手はここから攻めの3手の△34歩、△77角成、△76馬を実行して行きます。先手は端への道が開かれたので98地点へ向かいます。

△34歩、▲87玉、△77角成、▲98玉、△76馬で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

小木敏弘「王6手が面白いヒント。配分に悩みました。うまく角越えを発見して解決。」

小山邦明「玉の着手が6手だと後手に2回の玉の移動が必要と考えて、その時先手の玉が一番遠くに行ける手順から考え始めたのが良かった。」

斧間徳子「手順前後が利かない手順は？という裏読みで解けました。後手の無駄手2手の限定の仕方がユニーク。」

RINTARO「最初は4段目に玉が上がる手順とかを考えて苦戦していましたが、この詰み上がり図に気付いて解決。」

飯山修「後手の玉は無駄手と判っても先手玉が4回動くとなるとやはり端のこの形ですね」

原岡望「例の筋に持ち込む」

竹野龍騎「詰める側の玉が2回動くのは珍しい。4手目を指したところが実戦初形なら、先手有利？」

■後手に2手の不要手があることでピンとくるかが分かれ目。

ほっと「頭4手が騙されたような手順。」

Pontamon「4手目までに手順前後は無いはずなので、先後どちらかは歩突きから角とか金着手からの玉寄せなのかと思いましたが、3条件は全て玉着手に関するものでした。」

山下誠「後手玉のダミーの移動が思いつかず大苦戦。2手目と4手目が先手と同じ筋の着手というのが大きなヒントなんです。」

後憂生「2手目、4手目を限定するのに、作者は一苦労。」

波多野賢太郎「面白い条件だなと思いましたが、これで手順が限定されるのなら、先手玉5手、後手玉1手だと思いましたが、この詰上がりはなかなか浮かばなかったです。」

占魚亭「色々考えた末に頭4手が分かり、脱力。」

■序の4手に苦労された方が多かったようです。

キリギリス「初め、先手玉6段目、後手玉4段目で考えていましたが、どうもこれは不可能。ヒントの「先手玉9筋」から▲9六玉△9五歩だと思いましたが、これもNG。▲9八玉の局面を眺めていて、やっと正解に至りました。」

はなさかしろう「10手の要チェックの筋。後手の待ち2手次第で条件が大きく変わりますね。」

S.Kimura「98玉は気づいていたのですが、87歩成で詰ますことを考えていたので、10手では無理だと判断していました。」

榊彰介「分かりませんでした。4手目まで7筋にお互い玉を移動するのかわかりましたが、それから後手の飛車先をついても間に合いませんでした。」

■2手目と4手目の条件があるので、8筋の歩は10手では86まで。最後の歩成に手がまわりません。

諏訪冬葉「最初の4手で双方の玉を動かすのは予想できましたが、9筋まで行くのはヒント

を見るまで浮かびませんでした。」

■単騎詰めの手順と空き王手(両王手)の手順は要チェックです。最短手数で単騎に手数を追加されると全く別物の手筋かと思ってしまうこともあります。どうしても解けない場合は疑ってみてください。

\*\*\*\*\*

正解：19名

小木敏弘さん 小山邦明さん 斧間徳子さん

RINTAROさん ほっとさん のくせにさん

Pontamon 飯山修さん 原岡望さん 竹野龍騎さん 山下誠さん 後憂生さん 波多野賢太郎さん 占魚亭さん キリギリスさん はなさかしろうさん S.Kimuraさん 諏訪冬葉さん テイエムガンバさん

\*\*\*\*\*

117-3 上級 Pontamon 作

8筋最奥での歩成 11手

「11手で詰んだ将棋で珍しい手を見たよ」

「どんな手なの？」

「8筋の最奥での歩成があったんだ」

(条件)

・11手で詰んだ

・8筋の最奥での歩成があった

\*\*\*\*\*

出題のことば(担当 NAO)

歩が成るのは81か89か、どちらが早いかわかりませんか。推理しよう。

追加ヒント

先手は飛を取って攻める。後手は最奥の89歩成を目指す、88に打つ歩はどこで入手するか。

\*\*\*\*\*

推理将棋 117-3 解答 担当 Pontamon

▲76歩 △74歩 ▲55角 △75歩 ▲82角成  
△76歩 ▲83馬 △88歩 ▲62飛 △89歩成  
▲61馬 まで11手

(条件)

・11手で詰んだ

・8筋の最奥での歩成があった(10手目△89歩成)

詰上がり図

後手の持駒：桂

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	馬	王	香	科	皇			一
		飛				皇			二
歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
							飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 金歩

最奥での歩成は 8 1 なのか 8 9 なのかを考えてみます。

先手は 6 手あるので初期配置の 87 の歩を ▲81 歩成にはできるがもちろん詰みはない。後手の 5 手では 83 の歩は 89 へ届かない。つまり、どちらにしても、歩を取って、最奥の一つ前の段へ歩を打ってから最奥で成ることになります。

先手が ▲81 歩成とするのが最終手であれば玉は 71 に居なければならず、71 地点を空ける手や玉移動の 2 手、さらに先手の 87 の歩を取る必要が出てくるので後手の 5 手では手数が足りません。

となると、最奥の歩成は △89 歩成になるので、後手は 6 手目までに歩を入手して、8 手目に △88 歩とし、10 手目に △89 歩成します。一方、8 手目に後手が △88 歩と打てるように先手は 7 手目までに 83 の歩を取る必要があります。

△84 歩と突いた歩を先手が ▲76 歩、▲66 角、▲84 角の 5 手目を取る順とか、▲76 歩、△84 歩、▲77 桂、△85 歩、▲同桂の 5 手目を取る順もありそうですが、これらでは後手が 6 手目までに歩を取ることができません。後手が 6 手目までに歩を取る唯一の手順は、初手で突いた ▲76 歩を狙う手順しかありません。

初手から、▲76 歩、△74 歩、▲何か、△75 歩、▲何か、△76 歩。

7 手目までに先手が 83 の歩を取るには、▲55 角、▲82 角成、▲83 馬 の手順。角成が ▲73 角成だと王手になり、後手は王手の応手をする暇がないので角成は飛を取る ▲82 角成で確定し、8 手目に △88 歩ができます。(参考 1 図)

参考 1 図

後手の持駒：なし

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
皇	科	馬	王	香	科	皇			一
							皇		二
歩	馬		歩	歩	歩	歩	歩	歩	三
									四
									五
		歩							六
歩	歩		歩	歩	歩	歩	歩	歩	七
	歩						飛		八
香	桂	銀	金	玉	金	銀	桂	香	九

持駒 飛 歩

この参考 1 図の局面から残り 3 手のうち 10 手目の △89 歩成が決まっています。先手の 2 手でどう詰めるのか？居玉で手付かずの 1 段目の駒が勢ぞろいしているところを後手の協力なしの先手の 2 手で詰めるには…。そう、1 1 0 - 2 で出ていた詰み形の先後逆パターン詰み形があるので、▲62 飛、△89 歩成、▲71 馬で詰みとなります。

それではみなさんの短評をどうぞ。

(短評)

Pontamon (作者) 「「～があった」は途中の手っばいけど実は最終手というパターンもある。3～7 筋の一段目への歩成で仕留める 11 手詰めがあるので、81 歩成迄を考えてもらえたら成功。」

小木敏弘 「3 手で歩を取る為に、7 6 歩にロックオンしました。8 3 歩を取る前の飛車取りが見事に生かされました。」

小山邦明 「先手の 81 歩成の形は後手玉に迫る手がないので、後手の 89 歩成を実現するため

の歩の入手方法を考えたら、先手の 76 歩の着手を利用する手順を思い付いた。1 条件設定で 11 手詰が見事に限定されているのはすばらしいですね。」

竹野龍騎「1 条件の傑作。考えどころがあり、きっちり創られていて感心するばかり。」

山下誠「最終ヒントを見るまで、後手が歩の手ばかりを指すとは全く考え付きませんでした。傑作だと思います。」

後憂生「後手の 74 歩以外は、僕は僕、あなたにはあなた、そんな気分がする手順が続きます。」

占魚亭「75 歩が盲点でした。」

諏訪冬葉「そうか、ここに簡単に取れる歩があったのか。」

■飛車を取らせるための協力手△74 歩を指して任務終了で、目の前にある 76 の歩を取りに行くことに気付き難い。

斧間徳子「後手が 76 の歩を取る順がすぐには思いつかず難問でしたが、巧妙な 1 条件の秀作。ただ、個人的には「89 歩成という手があった」という 1 条件にしてすっきり仕上げた方が良いような気がします。」

波多野賢太郎「これは難しかったです。詰ますどころか、条件に合う歩成の手順がなかなか見つからなかったです。8 筋ではなく 7 筋の歩を突くとは予想外でした。単に 8 九歩成という条件でなく、8 一歩成もあるかもと考えさせるところがうまいと思いました。」

■賛否両論。共通することは難問だったこと。

RINTARO「適度な難易度で本手順に気付くまでいろいろと考えさせられました。後手の歩取りが 74~76 歩と気付いたときに全手順が解明するとともに解後感は満足です。」

ほっと「いやー苦勞した。まさか後手の 89 歩成だったとは。」

のくせに「76 の歩を 6 手目の取れるのが盲点

で、81 歩成の筋も捨てきれず、ツインの問題を考えてるようでした。」

飯山修「歩を入手出来ないので 88 歩は無理とハナから捨てていた。ひたすら歩入手を目指す手が成立するとは驚き。」

S.Kimura「81 歩成を予想していたので、89 歩成は考えてもいませんでした。」

はなさかしろう「素晴らしい条件、素晴らしい手順で、解図も面白かったです。歩成は先後どちらか迷いました。先手自ら 89 に歩を打つのも、後手自ら 81 に歩を打つのも可能なので、この条件がミニマムなんですね。」

■作者の狙い実現で、81 歩成を考えていただきました。

原岡望「歩の遅早」

キリギリス「ヒントを見ても、しばらく解けませんでした。「飛を取って攻める」より、角（馬）で飛と歩を取るしかありませんが、最終形の▲6 二飛+▲6 一馬がなかなか思い浮かびませんでした。また後手が歩を入手するのは足の速い大駒との先入観があり、これも盲点。非常に難しかったです。」

■はい、原岡さんのおっしゃる通り、歩の遅早

榊彰介「分かりませんでした。8 筋に打つ歩の入手の前に、後手の 8 筋の歩の消し方が分からず迷ってしまいました。」

■玉腹へトドメを刺すための馬移動で 83 の歩を取れました。

\*\*\*\*\*

正解：19 名

小木敏弘さん 小山邦明さん 斧間徳子さん  
RINTARO さん ほっとさん のくせにさん  
Pontamon 飯山修さん 原岡望さん 竹野龍騎さん  
山下誠さん 後憂生さん 波多野賢太郎さん  
占魚亭さん キリギリスさん はなさかしろうさん  
S.Kimura さん 諏訪冬葉さん  
テイエムガンバさん

\*\*\*\*\*

## 総評

小木敏弘「味のあるヒントが良かったです。」

■新担当のヒントはどうなることやら。

斧間徳子「今月は比較的難しめ。Pontamonさんの1条件作品はいつも素晴らしく、今後も期待したい。」

■新担当になって作図の時間は…。再開準備の状況だとどうにかなるでしょう。

RINTARO「良問3題。詰み上がり図の推察が大事でした。久々にヒント出題前に解けました。」

■新担当も詰み形を考えることから解くことが多いです。

大塚康平「初めてだったので、解くのに結構時間がかかりました。」

■締め切り前ヒントを待つのも作戦。

Pontamon「近況：ブラックフライデーの20%OffセールでPCをネットで発注し、12/8配送予定のはずが1週間早く今日12/2に届きました。この土日は環境構築になりそう。」

■そのPCは初年度サポートが切れる日にトラブって、結局、割安な3年サポートに入りました。

原岡望「2と3はヒントを見ました。詰パラ解答の余勢を駆って一気に解答」

■詰パラ締め切りが7日。こちらはヒントが出ていますのでご活用ください。

後憂生「ヒントを読んで、3題解決。これで今年も暮れて行く。さて、来年は如何なりますや？それでは、みなさん、良いお年をお迎え下さい。」

■2018年3月8日の詰将棋メモの通り、この総評が推理将棋コーナーへの最後のコメントになりました。謹んでご冥福をお祈りいたします。

波多野賢太郎「いろいろ忙しく、久しぶりの解答になります。少し休みましたが、今年も楽しい推理将棋をありがとうございました。」

■推理将棋を再開しましたので引き続きよろしくをお願いします。

S.Kimura「解説は遅れても、解答を出していただけると嬉しいです」

■この結果稿が積み残しの最後になります。

榊彰介「久しぶりに解答を送りました。環境が変わって(子供が産まれて)時間が取れなくなっ  
てしまいましたが、1問でも解けたら解答を送  
ろうと思いますので、よろしくお願いま  
す。」

\*\*\*\*\*

推理将棋第117回出題全解答者： 21名  
小木敏弘さん 小山邦明さん 斧間徳子さん  
RINTAROさん ほっとさん のくせにさん  
大塚康平さん Pontamon 飯山修さん 原岡  
望さん 竹野龍騎さん 山下誠さん 後憂生さ  
ん 波多野賢太郎さん 占魚亭さん キリギリ  
スさん はなさかしろうさん S.Kimuraさん  
榊彰介さん 諏訪冬葉さん テイエムガンバさ  
ん

\*\*\*\*\*

<ルール説明>

【協力詰】

先後協力して最短手数で受方の玉を詰める。

【点鏡】

55に関して点対称な位置にある2つの駒は、敵味方関係なく互いにその性能が入れ替わる。

[補足]

行き所のない駒の禁則は適用されない。

<問題>

【1-1】

点鏡協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
				王					五
									六
									七
									八
									九

持駒 角銀2

44 銀 66 玉 77 銀 33 飛 55 角 まで 5手

占魚亭

きれいな斜め一線の詰上り。

詰上り

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
							飛		三
					銀				四
				角					五
			王						六
	銀								七
									八
									九

持駒 なし

【1-2】

点鏡協力詰 5手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
									五
								王	六
									七
									八
									九

持駒 飛角2

71 角 28 玉 91 角 82 桂 39 飛 まで 5手

占魚亭

高坂研氏作 (108-8、108-9) を併せた感じ。

【1-3】

点鏡協力詰 7手

9 8 7 6 5 4 3 2 1

									一
									二
									三
									四
								王	五
									六
									七
									八
									九

持駒 銀3

24 銀 86 飛 26 銀 14 玉 24 銀 87 飛成  
 23 銀 まで 7手

占魚亭

87 飛成が渋い一着。

<感想を寄せてくださった方(々)>

占魚亭

<余談>

こんな編集でいきます。

# 没作供養【出張編】

占魚亭

いつもはツイッターで没作品を供養していますが、今回はこちらで行います。供養するのは『Problem Paradise』U コース投稿作(下図)。

## 協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
	■								一
									二
									三
									四
									五
									六
									七
									八
						王			九

攻方持駒 n金n銀

受方持駒 n香

※■ : Imitator

※持駒の金銀香は中立駒

(2018年10月16日完成)

### 【手順】

67n 銀、59 玉[I82]、58n 金、83n 香、78n 銀[I93]、89n 香不成[I99]、81n 香成[I91]まで7手。

n 香の往復(大移動)が狙い。n 香を 81 地点に打ってスイッチバックさせたかったのですが無理でした。

神無太郎氏作(第 111 回 WFP 作品展 111-3)が発表されたため、投稿を取り消して没に。太郎氏作と比べると詰めのがさが一目瞭然。持駒制限なしで作れるとは思いませんでした。

本作は2つの図を経て完成に至ったので、その図も掲載します。

AntiAndernach→中立駒使用という流れで作り、零王配置が見苦しいため粘って辿り着いた次第。持駒制限なしにしたいという思いはありましたが、無理と判断してもうひと粘りしなかったのが悔やまれます。

## AntiAndernach協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
■									一
									二
									三
									四
									五
							零		六
							王		七
									八
									九

攻方持駒 金銀

受方持駒 香

※■ : Imitator

※零 : Zero王

### 【手順】

47 銀、29 玉[I82]、28 金、83 香、58 銀転[I93]、89 香不成転[I99]、81 香成転[I91]まで7手。

## 協力詰 7手

9	8	7	6	5	4	3	2	1	
■									一
									二
									三
									四
									五
									六
							零		七
							王		八
									九

攻方持駒 n金n銀

受方持駒 n香

※■ : Imitator

※零 : Zero王

※持駒の金銀香は中立駒

### 【手順】

47n 銀、29 玉[I82]、28n 金、83n 香、58n 銀[I93]、89n 香不成[I99]、81n 香成[I91]まで7手。



## 解答募集締切一覧

ネットでのフェアリー詰将棋の解答募集締切一覧です。締切日が早いもの順です。解答先は各々異なりますのでお間違えにないように。

### 2019年10月10日(木)

#### 推理将棋第120回出題

推理将棋 3題

### 2019年10月15日(火)

#### 第114回 WFP 作品展

フェアリー作品 9題

最短手数探索 (推理将棋) 2題

### 2019年11月15日(金)

#### 第115回 WFP 作品展

フェアリー作品 8題

最短手数探索 (推理将棋) 1題

## 作品募集締切一覧

### 第51回神無一族の氾濫

作品要件	局面の局所的な変化を主題とした作品
募集締切	2019年10月13日(日)
募集作品数	4+1 (ばか詰枠)
送り先	神無七郎 (k7ro.ts@gmail.com) 上記宛先へ E-mail でお送りください。
備考	1人何作でも投稿可。 採否は10月20日までに通知します。

※詳細は本号の P13 をご覧ください

### Fairy of the Forest #61

課題：自由課題の協力詰

投稿締切：2019年11月15日(金)

(投稿先)

→酒井博久 (sakai8kyuu@hotmail.com)

※詳細は本号の P47 をご覧ください

## 【読者サロン】

占魚亭

134号の「あとがき」でふれていただきましたが、『暁将棋部屋』の「暁フェアリー」担当(龍華香の名義でやります)に就任しました。新しい作家に出てきてほしい、フェアリー初心者向けに特化した場にするのもいいかな等思っていますが、担当者の思いは無視して投稿してください。ただ、難しすぎると正解者が出るかどうか分かりませんが……(たくぼんさんがいるので大丈夫?)。また、解答もお待ちしております。

### 【あとがき】

消費増税の影響か、仕事が超多忙となってなかなか創作や解図に時間が取れなくなっています。10月に入れば落ち着くと思うのでそれまでは辛抱です。といつつ10月に入れば地方祭モードになりそうでなかなかそう上手くはいかないかも。



たくぼん

2019年 第135号

### Web Fairy Paradise

非売品

令和元年九月号

令和元年九月廿日発行

発行所 愛媛県新居浜市

発行兼編集人 須川卓二

発行所 Web Fairy Paradise 編集部

問合先

須川卓二 takuji@dokidoki.ne.jp